練習が技術をつちかい 技術が信頼を支える

きょうの反省を、あすの練習に、試合に結びつける……スポーツマンにとって、大切な心がまえです。常により高度な技術をめざしてチャレンジする――それはブラザーが目ざしているものと一致します。技術がチームメートの信頼を支えるように、お客さまの信頼に応えるのは、高度な技術に支えられた品質以外にないのですから――。

BROTHER
ブラザー
ブラザー工業株式会社
ブラザーミシン販売株式会社

第17回 国際ハンドボール連盟通常総会

開催日
一九七八年九月七日〜十一日

開催国
アイスランド

参加国数
45カ国一六一名出席

◇スケジュール

9・6日(水) 参加者ゲスト到着
7日(木) 9時各委員会(COC・PRC・CCM・MC・CPD)
14時 理事会(大陸協会委員会等)
8日(金) 9時 主要トピックに関する作業部会
(イ) 組織問題
(ロ) ルール及びレフェリー問題
(ハ) 出版物および普及問題
各作業部会は言語によるグループ独英仏に分割
9日(土) 9時 開会式
10時 総会議事開始
13時 昼食
15時 総会
20時 夕食
10日(日) 9時 総会
20時 閉会
11日(月) 遠足
12日(火) 参加者およびゲスト出発

◇議事次第

① 開会
② ハンスバウマン杯贈与
③ 紹介
④ 議事録チェック人2名の指名
⑤ 経会成立確認
⑥ 1976年総会議事録の承認
⑦ 会長および委員会報告
⑧ 財務報告および監査報告
⑨ 財務承認投票
⑩ 1980年モスコーオリンピックゲーム
⑪ 1980年モスコーにおける第18回IHF総会
⑫ 総会へ提出された提案の討議
⑬ 理事会からの特別管理事項提案
⑭ ジュニア(男・女)世界選手権大会
⑮ 「組織に関する問題」作業部会
⑯ 「ルールおよびレフェリーに関する問題」作業部会報告
⑰ 「出版物およびレフェリーに関する問題」作業部会報告
⑱ 活動計画及び普及行事の割当
⑲ 予算の決定及び分担金の決定
⑳ IHF講師団の協力に対する指導原則
㉑ 図入り出版物及び宣伝リーフレット
㉒ 修正
㉓ その他

議事内容

②について
クエート協会受賞 アジア連盟設立 普及発展に尽くした

⑥について
審判員及技術等の要求があればIHFにレポートして欲しいレポートには返答がない返答のない場合の罰則を決めたいものだ

⑩について
男子一九八〇年七月二十六日女子一九八〇年七月二十九日から開始する。モスコーオリンピック予選会は一九八〇年三月一日までに終了して下さい

⑪について
一九八〇年七月十六日、十七日ハンドボール会場で開催する技術委員会は七月十四日米国で開催する
第18回総会は重要である(会長以下の選挙がある)出席して欲しい又外交関係のない国とのビザ入場券等についてはIHFに要求して欲しい

⑬について
(イ) 英・独・仏語の他にソ連語の公用語採用に関する件上記3カ国語と開催国語を公用語とすることに決定
(ロ) イスラエルアジア帰属に関する件
レ連より提案されたがイスラエルはヨーロッパ地域に属する
(ハ) オリンパック世界選手権大会参加チーム数
オリンピック 男子12カ国 女子6カ国
世界選手権 3大陸から12位まで入賞した場合は該当地域より2チーム参加できる

⑭について
一九七九年ジュニア(男女)世界選手権大会はユーゴに決定

⑲について
現状でい今後の問題は研究検討する

⑳について
教育原則を作りつつある要求があれば翻訳出来次第発送する

㉑について
技術書ではなく初心者向けのもの独・仏語で完成予定

㉒について
アルバニア トルコ アンゴラ ガーナ 中部アフリカ ツマンチバー サントメ「バーレン イラン カタール アラブミート クメール」ニュージーランド フィリピン タイ 英領ホンジュラス コスタリカ パナマ ペンゼーラ
(加盟国)
ギリシャ アイルランド(一時加盟国)トルコ アンゴラ 中部アフリカ ガーナ ガボン バーレン イラン カタール UEA(アラビア)シンガポール チリー(一時加盟国)パレスチナ

常務会各委員会報告事項(九月七日 九時)

1 組織大会委員会報告
COC委員長 クルト ワードマーク
(イ) 世界選手権大会は各大陸別(アフリカ、アジア、アメリカ)とヨーロッパのバランスがとれていない選手のレベルが低く不完全であった。
(ロ) 一九七七年第一回スエーデンのジュニア世界選手権大会は成功ではなかった。参加国数21辞退3カ国もあった。

2 競技規則レフェリー委員会

PRC委員長　カール・E・ワング

(イ) 技術委員会と共同でガイドラインを作った

(ロ) 一九七七年八月IHF中央講習会をコペンハーゲンで開いた。一〇〇人が参加

(ハ) その他の講習会

一九七七年　バグダット　三九人
フライブルグ　五三人
トリネック　一三人
ブカレスト　七人
一九七八年　ヘルシンキ　一七人
ソウル　三四人
エッセン　一九人
ダマスカス　不明

約一〇〇人　Bレフェリーが試験結果　Aレフェリーに承認された。

(ニ) PRC講師団二〇人いる
各国協会大陸協会の依頼があれば講師を指名します。

(ホ) 一九七七年版ルール解説書を出版した一九七八年八月一日より有効となる。

3 コーチ委員会

CCM委員長　イオン・クンスト・ゲルマネスク

(イ) 現在13カ国29人の講師団を有している

(ロ) 一九七七年九月ワルシャワでトレーナーシンポジウムを開いた

4 医事委員会

MC委員長　イストバレマトラッツ

ドーピング　すべてOKである

5 出版普及委員会

CPO委員長　マルペール　ジンメル

主な仕事は出版とスポーツ新聞との協力である

作業部会のトピックス表

(1) 世界選手権大会

(イ) 決勝で第二延長後も勝敗が決まらなかった場合勝敗が決定するまで延長を続けるべきか再試合とすべきか

(ロ) 開催国側のリクエストと関係なく6・8・9・12・16チーム参加の統一プランを作るべきか又これまでの方法を維持すべきか

(ハ) 開備国は世世界選手権大会とオリンピック大会を除きどのグループを選ぶか与えられるべきか

(ニ) A・B・C世界選手権大会は一年のうち違う時期に行なわれるべきか（スペイン提案）

(ホ) 現在の格付け方式が維持されるべきか又変更が望ましいか（ソ連）

(ヘ) 大会運営方式の変更に関する討論（ルーマニア提案）本ラウンドは6チーム2グループで

(ト) 世界選手権大会及びオリンピック大会予選（デンマーク及スペインの提案）

(2) ジュニア世界選手権大会（男女）

(イ) 2年毎が望ましいか

(ロ) 参加国数を決めるための討論
（COC案）男子16チーム
女子12チーム

(ハ) 予選
参加国数によるABグループに分ける

(ニ) 年令制限
（COC案）男子　一九八一年で二一才生年月日一九六〇年とその後
女子　一九八一年で才生年月日一九六一年とその後

ルールおよびレフェリー問題

(1) 国際審判員および各国審判員トレーニングと試験

(イ) 各国審判員の訓練とその方法
各国の試験の方法PRC講師団との協力

(ロ) Bレフェリー（公式国際審判員候補として登録された者）の名国における評価

(ハ) 各国でのIHF原則の解釈とその適用に関する公式ガイドライン

(2) 各国でのIHFとしてのレフェリーの観察

(イ) シマラムと方法IHF観察様式の評価

(ロ) レフェリー観察様式の交換

(ハ) レフェリー観察者コース

(3) 国際レフェリーコース

(イ) 中央コース

(ロ) 公式IHF地方コース（原則としてBレフェリー対象）
二―四年の計画（場所言語）
二―四年にいくつのコースが必要か

(ハ) PRCの講師が参加した非公式レフェリーコース計画準備作業条件（財務問題等）

(4) ルールに関する問題
協力選手―チームマネージャー
レフェリー退場
失格―チーム又は個人に対する罰

各国提案総括表

(1) ソ連提案――IHF規約の修正
会議における使用語はドイツ語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語とするスペイン語、ロシア語を加える修正案を提案

(2) デンマーク提案――一九七六年米国提案の世界選手権、オリンピック大会の出場国数、即ち男子12カ国　女子6カ国と参加国数を増やすべきだとの提案
従来通り一九八〇年の総会で検討する

(3) デンマーク提案――ジュニア世界選手権大会に参加するB―Cグループの選考は主催国が選択しているが主催国が選択すべきではないとの提案
結論　男子女子Aグループは従来通り
男子女子Bグループは主催国が決定
男子Cグループは主催国が決定すべきではない

(4) ルーマニア提案――世界選手権大会にAグループの競技運営形式の改善に対する提案
Aグループ男子に関しては予選ラウンド上位3チームを決勝ラウンドに進出させることによって試合数が増え2日に一試合（一日を休養）期間も延長する決定

(5) スペイン提案――男子世界選手権大会における競技日程の改善世界選手権大会日程を次の通り改善をした。
男子ABグループ　二月十五日～三月十五日
男子Cグループ　二月一日～三月一日
女子ABグループ　十一月十五日～二月十五日

(6) スペイン提案――男子世界選

手権大会Aグループの参加資格について大陸大表を基盤とした格付参加を廃止すべきである何如なる地域にあっても最高のチームが世界選手権大会グループに参加すべきであるとの提案大陸代表はBグループに参加すべきである会この件に関してはCOC委員会に再検討となる

(7) **ソ連提案**――世界選手権大会及びオリンピック大会の規約の改正

両チーム同率首位の場合の勝敗はポイントで決定する両チームの得点が同点の場合すべてのゲームの平均得点で決定する

二ないし三チームが同率首位の場合は各チーム間の平均得点高いチームを優勝とするそれでも同率同点の場合規約にあてはまらない。

(8) **ルーマニア提案**――男女ジュニア世界選手権大会に対する提案

12チーム以上参加する場合2つのグループ（AB）に分類するグループの分類は最近のランキングリストを基本に行なう。

参加チーム24チームになるまでAグループ12チーム残りをBグループとする。

24チーム以上の場合Aグループ16チーム残りをBチームとするAグループの最下位Bグループの上位は次期大会で入れかわる

(9) **スペイン提案**――ヨーロッパクラブ選手権大会日程の個定化について大会の日程を確立し、終始一貫して水曜日に決定すべきだとの提案であったが否。

(10) **ルクセンブルグ提案**――ヨーロッパ選手権大会に対する要求であるので省略する。

(11) **ソ連提案**――ヨーロッパカップ決勝戦の規約の改善

決勝二試合を同じ場所で行なうのではなく、一試合はいづれかのチームの地域で一試合は残りのチームの地域で行う。ゲームの順序は抽選で決定する。（否決された。）

(12) **スペイン提案**――ヨーロッパ選手権大会と別なヨーロッパ競技大会の設置に関する件　省略

(13) **ルーマニア提案**――公式試合においてブラックボード時計の使用について

公式試合において時計係は口頭でコーチに中継時間を通報していた。国際試合では言葉の障害で理解がむづかしい。ブラックボード時計を用いることによって改善がはかられる。適用するしかし規約にはしないこととなった。

(14) **スペイン提案**――IHF審判講習会を地域的（C・A・Rのメンバー）に行ない分類Bを対象としてはどうか。

言葉が類似しているので簡易な通訳なために利益が大きいCOCで検討

(15) **スペイン提案**――国際審判員がドイツ語、フランス語、英語を言語とする必要性に関する協定を廃止すること。

審判員の仕事は競技ゲームの規則に応じた試合を助けることにある。よって審判員は上記3カ国語を言語としなくとも達せられるであろう。否決ではあるが3カ国語を教育すべきであるとの結論。

(16) **デンマーク提案**――松ヤニ、ロージン、ベニス製ラレビン等種々なる粘着性物質を禁止すること（理由粘着性物質の使用はゲームの美観をそこなう。）

(17) **スペイン提案**――第六条の危険なプレーに対する7mスローを除去フリースローに換えるべきである。

（理由テクニカルペナルティー適用理由を誤まった理解をしているからである。）

スポーツマンらしからぬ行為に対してはペナルティーが課せられる又不当な方法でシュートが防害された場合も7mスロー（ペナルティー）が課せられる。警告ペナルティーとテクニカルペナルティーが混同されてはならないと考えるからである。

次回（1980年）のIHF総会で決定を持ち越し今回は否。

(18) **スペイン提案**――攻撃中のボール保持時間について

理由　近代ハンドボールを築く上で本質的なものであると考える。票決の結果反対多数で否決

(19) **ソ連提案**――(1)攻撃チームはボール保持時間45秒以内とする

(2) チームのドクター及びコーチは審判員の許可があった場合コート内に入ることができる。

(3) チームのキャプテンは長さ12cm幅2cmのチームカラーと違ったストライプ線の入ったシャツを着用しなければならない。

いずれも否決次回廻しとなった

一九八〇年―一九八二年 国際行事予定

① 一九八一年　**国際レフェリーコース**　開催国オーストリア

② 一九八一年　**国際コーチシンポジウム**　開催国スイス

② 一九八二年　**第19回IHF総会**　開催国イギリス

④ 一九八〇年　**男子世界選手権大会ヨーロッパ予選グループC**

⑧ 一九八一年　**男子世界選手権大会ヨーロッパ予選グループB**

⑥ 一九八一年　**女子世界選手権大会ヨーロッパ予選グループB**
IHF理事会で決定する
開催国ポルトガル

⑦ 一九八一年　**第2回女子ジュニアー世界選手権大会**　開催国カナダ

⑧ 一九八一年　**第2回男子ジュニアー世界選手権大会**（一九七九）女子ジュニア　開催国ユーゴ
男子ジュニア　開催国デンマーク、（スウェーデン）

⑨ 一九八二年　**第10回男子世界選手権大会**　開催国西ドイツ

⑩ 一九八二年　**第8回女子世界選手権大会**　開催国ハンガリー

※起案（一九七八年八月三十日）

お詫び

本誌第167号にて掲載致しました「ヤングナショナル候補選手」男子の部につき、No.13に関健三氏（三陽商会）の名前が発表されておりましたが当方の手違いにより誤って掲載したものです。

この場をお借り致しまして関健三氏ならびに協会関係各位様、そして読者の皆様方に深くお詫び致します。

編集委員長　小松原

新発売「ハンドボールスペシャル」

世界を制したスペシャル・ラバーシェルソールとは!?

●adidasは世界のスポーツシューズ総合メーカーです。●adidasの3本線はオリジナルです。

■ベロアレザー甲皮。つま先、かかと強化。

■スペシャル・ラバーシェルソールは、3つの吸盤とストップ、回転グリップ、各機能をもつ3ゾーンにわかれ、床を正確に、そして安定感ゆたかにとらえ、その結果、あなたは、スピードとパワーに乗った大胆なプレーを、狙い通りに決められます。また、このソール構造は、関節への衝撃からくる傷害を防ぎます。

■つま先部には、9個の通気孔があり、靴内の熱気からくる疲れを抑えました。靴舌にも通気孔を採用。

■足首、かかと、靴舌に、はきごこちを高めるパッドを採用。

Hand ball Special

(青×白) ¥19,000

adidas®

●お求めはadidas特約店で。

総代理店 兼松江商株式会社　発売元 兼松スポーツ用品株式会社 〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3 ☎06-305-1431 〒101 東京都千代田区内神田1-11-13(株本ビル) ☎03-296-5611

すべてのスポーツマンに 3本線のNo.1感覚を。

男子メンバーを更に〝一新〟

～モスクワ候補選手決まる～

中井ら姿消す

韓国戦の雪じょく期す女子

日本協会は11月25日の全国理事会、同26日の臨時全国代議員会（いずれも東京）で二年後に迫ったモスクワ・オリンピックに対する全体制を決定した。

それによると、注目のオリンピック候補選手は、男子15名、女子21名で、いずれも「昭和53年度ナショナル・チーム」としての選抜である＝【本誌第167号】

コーチングスタッフは、男子監督は、竹野奉昭氏（日体大出）が引きつづきつとめるが、女子監督は、新たに池田鉄哉氏（三十二才、芝浦工大出、日本ビクター監督）が就任した。

男女リスト、池田新監督を含むコーチングスタッフは、いずれも強化委員会の推案。両会議とも異論なく承認した。

女子監督の交替は、世界女子アジア予選後、いったんは留任を決めていた鈴木義男氏が、その後、改めて辞意を表明したことによるもので、強化委は、コーチとして活躍中の池田氏を昇格させた。

男子選手は、予想を上廻る〝若い顔ぶれ〟となった。

昨年六月、木野(湧永)、藤中（大同）、GK本田（大阪イーグルス）が姿を消し（＝本誌154号）、今年になって、さらに、中井、花輪(ともに大同)、佐藤、GK柴田（ともに本田）が退陣、モントリオールオリンピックに出場した選手は、ついに穂積(湧永)、蒲生（大同）の二人だけという淋しさである。

今期〝引退〟を表明した中井ら4選手については、コーチングスタッフも、かなり翻意を促したようだが、勤務や体力上の問題で、当人たちの辞意が固かったと伝えられる。

しかし、日本協会では、4選手が、それぞれの所属チームでは、まだプレーをしていることなどもあって、年明けに面接しよう、場合によっては、一、二の選手のカムバックが考えられる。

新加入はテクニシャン・山本（湧永）と、大型GK岡部（大崎）の2人だが、池ノ上、生駒（ともに湧永）、GK井藤（日体大）ら52年6月組の6人も〝新人〟同ようといえ、フレッシュな印象が強い。

しかし、キャリアの点では、不安があり、その意味で、今春四月世界チャンピオン国・西ドイツ遠征が本決りとなったのは、大きな意義がある。

また、竹野監督は、一月の全日本総合、全日本実業団選手権のあと「二～三人の補充があるかも知れない」といっている。

モントリオール組は5人

女子選手は、アジア予選敗退後〝引退〟を心配されたモントリオール六人組のうち、小森（プラザー）がユニホームを脱いだだけ。加藤、穂積（ともにビクター）松下、河田(ともにジャスコ)、紀野（立石）が健在で、このほか、GK山本(プラザー)、清水（ムネカタ）ら「韓国に二敗」の悔やしさを知る選手も残って、むしろチームの結末は、今春時点より高まっている感じだ。

また、池田新監督の意向で、思い切った新人、若手の登用も目立つものがあり、日本リーグの得点王・伊藤(ビクター)、桑原、GK井村（立石）の新進や、鳥田（日立）、千歩(北国）ら大型選手などバラエティに富んだ布陣となっている。

モスクワ・オリンピックのアジア予選は、男女とも「十一月、韓国」が有力だが、残る期間で、どこまで、モントリオール代表チームの力にまで追いつくか、追いこすか。今後の強化合宿に期待をかけたい。

10コーチで男女担当

コーチ陣は、これまでの東嘉仲本田洋、木野実の男子、白神邦雄の女子コーチのほか、野田清（立大出）、市原則之(広島修道大出)、近森克彦（早川清孝(日体大出)、芝浦工大出)、谷口俊郎(熊本市商出)、伊藤宏幸（日体大出)の六氏が新任された。

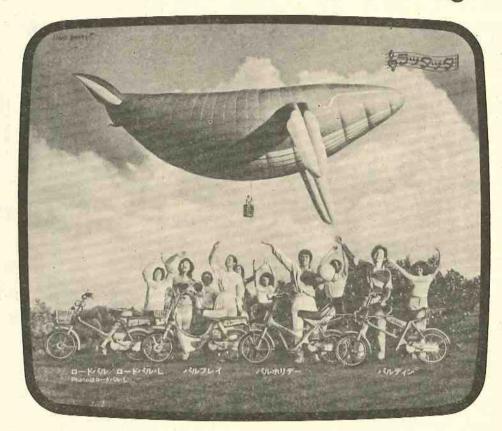
今後は、これまでのように、男女にコーチを分けず、10人のコーチが、竹野、池田両監督の〝依頼〟で指導にあたる、という新しい方法が採られる。

なお、女子コーチ、藤原侑氏の辞任が承認された。同氏は、今後全日本学連推せんの強化委員として、委員会には残る。

【表紙写真】
男子第21回全日本学生選手権大会（日本体育大VS日本大の決勝の模様）

「ハンドボール」

53年11、12月号(第163号)目次

パルパル エブリボディ。

5タイプそろったホンダのパルシリーズ。乗りやすさは共通。お好きなタイプが選べます。

ロードパルの仲間たちが、たくさん走りはじめています。あの道、この道が、急にバラエティ豊かになりました。スタイルいろいろ。色とりどり。乗る人の個性と、パルの個性が…なぜかぴったり合うのです。5タイプそろったパルのうち、あなたのお気に入りはどれですか。もちろん、やさしさ・乗りやすさは、みんなおなじ。気軽にどこかへ散歩、としゃれてみたくなります。

パルはユニーク。新しい仲間も、個性たっぷり。●パルフレイ：エレガントなデザイン。乗り降りのラクなU字フレーム(車体中央)。泥ハネから足もとを守るレッグシールドなど親切設計が特長。●パルホリデー：ユニークなヒップアップ・シート。しゃれた感覚のバーハンドル。タウンで似合うバイクです。●パルディン：スリムなパイプフレーム、イキなクロームメッキ・フェンダーがナウな感じ。

ごぞんじですね、ラッタッタ。
ロードパル ——— 標準現金価格 ¥59,800

クイックスタート、とってもべんり。
ロードパル・L ——— 標準現金価格 ¥64,800

乗るかたへの心くばりがいっぱい。
パルフレイ ——— 標準現金価格 ¥75,000

しゃれたスタイル、タウンで似合う。
パルホリデー ——— 標準現金価格 ¥79,000

ヤングの感覚、ナウなフィーリング。
パルディン ——— 標準現金価格 ¥79,000

ヘルメットをかぶろう HONDA

「私のパル」を持ちましょう。

パルスクール 原付免許の取り方だけでなく、正しい乗り方指導までも実施しているのが「パルスクール」の大きな特長。ていねいにご指導しています。

ホンダ・クレジット わずかな頭金とかんたんな手続きでお求めいただけます。お支払い方法は、ご予算にあわせていろいろ。クレジットカードはいりません。

★パルスクールとクレジットの詳細は、ホンダ販売店でどうぞ。

本田技研工業株式会社鈴鹿製作所
●〒513●三重県鈴鹿市平田町1907●ＴＥＬ鈴鹿0593：78－1212〈代表〉

日本リーグ勢に挑む日体大男子

第30回全日本総合選手権は今年度のナショナルチャンピオンの栄光をかけ，1月17日から21日まで，東京体育館に男子24，女子16チームが集まり，ナックアウトシステムで行われる。優勝の行方を展望してみよう。

なお，この大会が1月に開かれるのは第1回大会以来のこと。

全日本総合展望・女子はビクター中心か

〔男子〕6チームづつ4パートに分けて有力チームを探ってみよう

Aパートでは、二連勝を狙う大同特殊鋼の準決勝進出が、まちがいないだろう。

日本リーグ、長野国体で示したチーム力は、前年よりも、いっそう円熟し、つけこむスキがない。

〃打倒大同〃は、各チーム共通のテーマだが、堂々と受けてたつ横綱相撲。日本リーグでの十四連勝（完全優勝）が、何よりの証明である。

大同に食い下るとすれば、名城大×コンドルズ戦の勝者だ。

この対戦は、序盤の好カードの一つにあげていい。コンドルズは国体の関東予選で、三陽商会を破るほどのまとまりをみせており、その気力が再び高まれば面白い。

名城大も、いまの学生界ではトップクラスの技打をもつ。コンドルズを食って、大同戦までは、勝ちあがりたいところだ。

Bパートは、学生チャンピオン日体大が、大崎電気、日新製鋼の日本リーグ勢に、どこまで肉薄できるか。今大会焦点の一つである。

日本リーグが発足して以来、ベストフォアに、学生勢が食いこめなくなっている。昨年は、ついに八強のうち、七チームが、日本リーグ所属だ。

今年の日体大は、一宮監督が、シーズンはじめから学生界制覇だけでは満足せずとして、この大会での上位進出を目標に据えて、練習を進めてきている。

それだけ自信があるわけだが、スピード豊かな攻撃力と、工藤、GK井藤を軸とする守備力は魅力がある。

しかし、来季二部落ちが決まっているとはいえ、過去6回優勝を誇る名門・大崎が、そうやすやすと、若いチームの軍門に降るとは思えない。

仮に、日体大が、最初の難関を突破しても、次の相手は、上り坂の日新。楽な道のりではない。

日体大が勢いづいて、準決勝進出を果すようなら、三十年記念大会を飾るにふさわしい〃快挙〃といえ、期待をかけたい。

大崎×日体で、大崎が勝つようなら、波にのることが予想され、日新戦も予断を許さなくなる。日新にしても、リーグ4位の真価を問われる場であり、日体または大崎戦をとって、初のベストフォア進出をとげたいところだろう。

日新が警戒を要すのは法大だ。今年の法大は、どんな相手でも競り合う不思議な試合ぶりを得意の型にしている。日新が焦ると、波乱なしとはいえない。

本田技研の進出を期待

Cパートは、順当なら本田技研鈴鹿×三陽商会の準々決勝から、本田進出とみていい。

不安があるとすれば三陽の方。前回、学生界で唯一のベストエイトチーム。今年も学生選手権二位となっている日大戦は、楽な展開を望めまい。

その日大も、緒戦の東京教員が張り切っているだけに、三陽戦ばかりに焦点をあてていると、足元をすくわれそう。

しかも、東京教員の主力・新井田は、昨年までの日大のエース、現・日大コーチという〃皮肉さ〃だ。

Dパートは、湧永薬品の独走だろう。対抗は三景×中大の勝者。

三景は三年連続三位で、本来なら、当然、優勝候補グループに名を連ねていい実力チームだが、今年の日本リーグでは低調を極め、二部落ちが、決まってしまった。

立ちなおりのきっかけを賭け、この大会へかける闘志は、なみなみならぬものがあるというが、いったん失った粘りを、そう簡単に取り戻せるかどうか。

中大も、いちちは、打倒実業団の一番手と目されていたのだが、このところ、かつての迫力を欠いている。最上級生の試験期にぶつかるともいわれ、湧永の相手は、三景が有力だろう。

思い切って、準決勝のカードを占うと、大同×日新、本田×湧永だ。

日新に代って大崎、日体大の可能性もあるが、この三チームとも大同を破るパワーには欠ける。

問題は、本田×湧永戦。日本リーグでは22－13、19－14と湧永の連勝に終っているが、本田は、波に乗れば大同をとことん苦しめ抜くほどの力をもっている。

佐藤、喜井、田上、新人佐々木GK柴田らの顔ぶれは、技術的にも体力的にも、湧永、大同にヒケをとらぬものがあるだけに、大波乱の期待は充分である。

雪じょくへ、闘志の湧永

かといって、湧永が、むざむざと退くとは思えない。

全日本の決勝で、大同を叩かねばという宿願が、このチームにはあるのだ。

その闘志は、準決勝でつまづくことを許さぬ厳しさとなって、現れるに違いない。

津川、穂積、松本、山本、GK福井。それに木野、高橋の両ベテラン、池ノ上、生駒の両大型新人チャンピオンチームを名乗るにふさわしい布陣である。

本田戦は、多少苦しむ局面はあっても、結局は、決勝進出を果すとみる人が多い。

大同×湧永か、大同×本田かは今後の日本ハンドボール界の動きを探るうえでも、興味深いが、鮮度からすれば、大同×本田を望む

ファンが圧倒的である。
なにしろ、この大会の決勝は、最近三年間つねに大同×湧永だし全日本実業団選手権決勝でも四年連続、それに国体でも、日本リーグでもとなれば、日本のトップゾーンは両チームだけで回転しているようなものだ。
ただ、本田には、いぜん、ここ一番でのもろさがある。
日本リーグ後期の大同戦で、残り4分まで1点差のリードを奪いながら、そのあと、4点を失って逆転負けしている。
この不安が、湧永戦を占ううえでも、ぬぐいされないで残る。
もし湧永戦をとったら、一気に大同の冴城も攻め崩すかもしれない。という予想をたてる人がいるのは本田の現状を、いい当てていると思う。

◇……男子組み合せ……◇

大同特殊鋼(JHL)
丸善石油下津(実連)
自衛隊勝田(自衛隊連)
名城大(学連)
日鉄建材(実連)
コンドルズ(教職員連)
大崎電気(JHL)
(社会人中部)
日体大(学連)
東京重機工業(実連)
法政大(学連)
日新製鋼(JHL)
本田技研鈴鹿(JHL)
明治大(学連)
スワロー兵庫(教職員連)
日大(学連)
東京教員(開催地)
三陽商会(JHL)
三景(JHL)
鹿児島ク(社会人西)
中大(学連)
熊本教員(教職員連)
湯沢ク(社会人東)
湧永薬品(JHL)

円熟、自信の大同特殊鋼

大同×湧永となったらどうか。日本リーグでは19－16、17－14、長野国体では16－9、大同三連勝というのが今シーズンの対戦。
湧永の白星は、52年7月、第2回日本リーグ前期の19－17まで遡のぼる。
実績は、はるかに大同有利だ。国際的アタッカー・蒲生を切り札に中井、花輪、大原、中本、柳川弟、松原、GK柳川兄というラインナップは、そのまま「全日本」と称してよいほどの豪華さ。
それに、病いいえた藤中のカムバックも伝えられているとあってますます、チームのムードはいい。
中浜監督も「今年度は、四大タイトル（日本リーグ、国体、実業団＝2月、総合）独占のつもり」というほどの自信だ。
湧永としては、僅少差でせり合いながら、勝機をつかむことが必要。敗れるパターンは、接戦模様から集中攻撃を浴びて相手に主導権を与えてしまうことにある。つまりは、ディフェンスが、どこまで、大同の多彩な変化を防ぎ切るかにかかる。
市原監督は「日本リーグ後期の一戦で、手ごたえをつかんだ」という。
檜舞台で、大同戦五連敗（ほかに一分）の汚名を雪ぎたいとする意欲は、今大会最大の焦点といってもさしつかえあるまい。

注目の日立×東女体大

（女子）日本リーグ勢の争いになることは間違いない。
それも、ベストフォアに日本ビクター、ジャスコ、ブラザー工業の進出は確定的。残る一つの座をめぐって、日立栃木、東京女体大立石電機がもつれ合うBパートが序盤でのみどころだ。
日立×東女体大は、男女を通じ一回戦で最も注目されるカード。
今年の東女体大は、学生チームとしては、かつてないほどの速さと巧さを誇る。
磯山、川波、GK横田を攻守の軸に配したメンバーは、学連関係者の間に「実業団なみ」という言葉を生んでいるほど。
順当なら、当りの強さ、試合運びで日立にブがあるとみられるがそうなると、今度は日立×立石の予測が難しい。
日本リーグでは立石が13－11、13－10で連取しているが、日立は女王・ビクターに土をつけるほどの力がある。激戦となろう。
さて4強の争覇戦、ちょっとやそっとでは、勝敗の行方を断ぜぬが、あえてランクをつければ、日本リーグ優勝の日本ビクターが攻守の安定感、とりわけ速攻のたくましさという点で一番手。

◇……女子組み合せ……◇

日本ビクター(JHL)
和歌山県商工信用組合(実連)
東京重機工業(実連)
大和銀行(実連)
日立栃木(JHL)
東京女体大(学連)
武蔵野ク(開催地)
立石電機(JHL)
ブラザー工業(JHL)
日体大(学連)
日女体大(学連)
大崎電気(JHL)
北国銀行(JHL)
ムネカタ(JHL)
京都ク(全国社会人)
ジャスコ(JHL)

ジャスコ×ブラザーが準決て顔合わせか！

つづいて長野国体優勝、リーグ二位のジャスコだ。
ただ、ジャスコは、苦手ブラザーとの準決勝が気がかり。ブラザーが、リーグ後半の好調で自信をつけているようだと、初の決勝進出の可能性も、充分出てくる。
日立×立石は、一応、立石有利とみて、立石が、ビクター戦でどのような食い下りをみせるか。
エース紀野の復調が完全だと、リーグを乗り切ってきた若手の伸びが見込まれるだけに、ビクターも油断はできない。
ビクター×ジャスコの決勝となれば、両者五分の力で、まれにみる白熱戦となろう。
立石×ジャスコなら、ジャスコ僅かに有利、ビクター×ブラザーならビクター、立石×ブラザーなら立石とみる。
日立は、立石戦を乗り切ってもビクターを制するのは、難しかろう。
このほか、成長いちぢるしい日女体大、二十五回最多出場記録の日体大、日本リーグ復帰をきめた大和銀行が、どう戦うかみものだし、北国銀行が、一本勝負の面白さを存分にみせて、ジャスコを苦しめる期待もかかる。
十五年ぶりの京都ク、初出場の武蔵野クは、一回戦それぞれ荷の重い相手だが、健闘を祈りたい。
また、日本リーグ復帰を惜しくも逸した東京重機が、名門の意地をかけての登場は、コートサイドを沸かすことだろう。

モスクワへ向けての新体制発足にあたって

～強化委員会報告・その2～

強化委員長　渡　辺　慶　寿

モントリオールオリンピックを終えモスクワにむけ強化をはじめて久しい。

今回は、11月25日全国理事会、11月26日代議員会で承認された事項をここに報告する。

日本ハンドボール協会が委員会制度を設けて、はや二年目を終えようとしている。

強化委員会は、一年目で組織の充実を未完成ながらもおこない、二年目に入ってからは委員会内の組織の具体的活動に取り組んだ。

しかしその成果はまだ具体的に表われるにはいたっていない。強化の一つの役割はあらゆる層の具体的強化策であり、その中より将来日本を代表する選手を発掘あるいはつくり上げることにあるが、未だ十分な見通しはついていない。ただ現在各種大会を観戦し、優秀とみなされる選手のリストアップにとどめられているが、今後はそれらの選手をいかに具体的に育てていくかが大きな課題となろう。

昨年3月に強化委員会が発足して、男女の監督、コーチングスタッフ、ナショナル選手の選出、強化の目標、方針を決め強化の始動をはじめたが（機関誌№163参照）

今回の第7回女子世界大会アジア予選での敗退により、いくつかの問題が生じた。

6月16日女子アジア予選の戦況分析にもとずき今後の強化の方向を検討し、継続して現行体制で進むことを確認したが、その後、8月に入り鈴木義男女子監督の辞退届があり、説得につとめたが、辞退を認めざるをえない結果に終った。

9月29日強化委員会としては、鈴木氏の辞任を認め、ただちに新監督に池田鉄哉氏（日本ビクター監督）を推せんし、女子の体制固めをおこなった。一方選手についても、本来ならば、世界大会後に入替を考えていたが、敗戦の結果一部の選手の辞退があり新監督就任後案作成をおこなった。10月25日常務理事会で決定し、ただちに公式発表をおこなった。また、男子についても世界大会終了後現在に亘り、辞退者が数名でた。

すなわち、佐藤要二、柴田正章（両名本田技研）中井武三、花輪博（両名大同特殊鋼）であり、会社の勤務の都合、体力的限界、強化に対する疑問の理由での辞退である。ナショナルチームにとって大きな損失であることは事実であり、11月25日の全国理事会でも、選手確保の問題で議論がなされ、協会全体で協力体制を考えるべきであるとされ、今後も辞退者に対して説得してくれることにもなった。

男子ナショナル選手の選手については、中井、花輪、佐藤(要)、柴田選手の辞退にともない、当然補強しなければならない。新たに選ばれた選手のうち、山本伸二（

強化部組織表

- 強化委員長：渡辺　慶寿
  - 強化委員会：北岡　大覚、山口　毅、阿部徳之助、幸田　末之、横地　宇吉、（竹野奉昭）、（池田鉄哉）、村田　弘、柳井　文治、山田　稔、桑名　照雄、富永　劭、藤原　侑
    - 総務：山口　毅
      - 天野　正美、坂理　泰介、高田日呂美
    - トレーニングドクター：阿部徳之助(兼)
      - 新井　節夫、豊島進太郎、北川　勇喜
    - 男子強化部長：幸田　末之
      - 監督：竹野　奉昭
        - ヤング担当：木野　実
          - 選手
    - 女子強化部長：横地　宇吉
      - 監督：池田　鉄哉
        - ヤング担当：池田鉄哉(兼)
          - 選手
    - コーチ群：東　嘉仲、本田　洋、木野　実、近森　克彦、市原　則之、野田　清、早川　清孝、白神　邦雄、伊藤　宏幸、谷口　俊郎

湧永）は日本独特のプレーを発揮できる選手であり、日本チームイズムを忠実におこなううえにおいても充分期待できる。岡部大（大崎ＧＫ）は、柴田選手の辞退にともない、ＧＫの補充が必要でありあまりめだたない選手であるが、ポイントをよく把握できる選手であり、日本のＧＫとして期待できる選手である。

女子については、小森（プラザー）楠石（プラザー）藤井（日体大）横山（東京重機）の辞退にともない、男子より多くの人選をした。今回はなんとしてもオリンピックアジア予選に勝たなければな

男子ナショナル強化合宿予定表（53年度残り分）

	合宿・大会	期日	場所	対象選手	合宿目標
53年度	第3次	12月 13日～19日	代々木スポーツセンター（東京重機）	ナショナル	第2次の体力測定後個人トレーニング効果の再検 個人のシュート能力の開発 攻・防の基本プレー及び総合練習 応用技術の確認及び修正
	第4次	54年3月 1日～7日	（交渉中）	ナショナル	日本チームの攻・防システム確立及び徹底 攻・防で選手個々のコンビネーション 対戦チームの分析（ＶＴＲ等） 基礎体力の強化
	第5次	3月 25日～31日	（交渉中）	ナショナル	第4次合宿の技術の高度化 コンビネーションプレーの徹底 精神面の指導
	遠征ヨーロッパ	4月 1日～10日 11日～17日 18日～24日	西ドイツ ポーランド	ナショナル	戦術の分析 ヨーロッパ的技術の習得 日本の技術とヨーロッパ技術を比較研究

女子ナショナル強化合宿予定表

	合宿・大会	期日	場所	対象選手	合宿目標
53年度	第6次	11月 13日～20日	三重（ジャスコ）	ナショナル ヤング	体力測定の実施にもとずいた個人トレーニング 基礎体力，特に全身持久性の強化 基礎技術，パス，キャッチ，シュートの強化
	第7次	12月 11日～17日	茨城（日本ビクター）	ナショナル ヤング	個人トレーニングの効果とその再検討 基礎体力，全身持久性の強化 基礎技術，パスアンドランの徹底
	第8次	1月～2月 29日～4日	名古屋（ブラザー）	ナショナル ヤング	個人トレーニングの効果とその再検討 パスアンドランの徹底 個人技能の徹底，特にシュート技
	東独来日（予定）	2月 13日～19日	東京その他	ナショナル	試合において最後まで戦う意志を持たせる。 個人技能および体力の養成の成果をみる。
	第9次	3月 12日～21日	（交渉中）	ナショナル ヤング	国際試合を通しの反省にもとずき， 体力，技能の個人的養成を行う 特にフットワークの強化。
	日韓社交流	3月 13日～23日	未定	ヤング	ヤングの対戦により，将来の展望をさぐるとともに，日本の今後の強化の目標の再検討の場とする。

らないので女子界ではベテランとされる、松下（ジャスコ）加藤、穂積、小島（日本ビクター）を残しての新体制である。

ヤングナショナル選手については、モスクワ以降の選手の育成に目標をおいている。この強化には年度を追うごとに合宿の頻度を高めることにしているが、女子については、11月、12月、1月の合宿までは、ナショナル選手と同時合宿をおこなうことにしている。女子においては特に、ナショナルの雰囲気になれることであり、若い選手が強化合宿に精神的にのまれないために当初の数回を同時合宿としたものであり、若手のプレーに自信をもたせるための配慮でもある。

コーチングスタッフについては当然コーチの質的向上をも考えなければならないが、今年は強化合宿の目標にあわせてコーチ派遣をすることにした。東嘉伸、本田洋木野実、白神邦雄、各コーチ（日本体協強化コーチ）の他に日本協会強化コーチとして、市原則之、野田清、早川清孝、近森克彦、谷口俊郎、伊藤宏幸の各氏6名を選び計10名とし、コーチ群とした。両監督は従来からのコーチを重点的にナショナル強化にあてることとなろうが、男女の交流指導も必要なことであり、その派遣を監督の要請によっておこなうことにしている。また将来はこれ以上の人数になることも考えられ、直接ナショナル指導をするものと、将来指導者としての養成を対象としたもとをあわせて考えなければならない。今回の人選もこの様な幅広い考え方を求めている。強化委員会メンバーの部では、今回の方法はコーチ陣に混乱をまねくとの反論もあったが、遂行することにした。

技術、体力、トレーニングの具体化は急務であり、一層科学の目を向けなければならない。強化練習の技術の目標がどの程度達成しているかをある程度客観的に評価把握できることによって目的達成がより具体化されるものである。従ってトレーニングドクターの役割は、強化育成において重要な要因となる。前回の報告のごとく、男子についてはドクターの助言がナショナルチームに浸透し、次回の強化合宿でその成果が判明できることになっている。女子についても今回の合宿でナショナルヤングナショナルに体力測定を実施した。この結果については次回の強化委員会報告となろう。

国際経験の必要性は認められるものであるが、そのタイミングによって意義づけられる。男子については、昭和54年4月に西独を中心に遠征をする。この目的は試合を中心とするものであり、日本チームが国際対戦からみて失点を少なくすることを課題の一つとしている。この点を世界大会後にどれだけ解決できたかをみるためでもあり、国内の強化の目標でもあるまた体力面からくるチーム力の低下も前世界大会で経験しており、技術の総合力の維持をするために要する体力面の養成をも強化の目標としている。従って国内強化の成果が今度の遠征でどの様に達成することができたかが遠征の目的となる。

遠征の結果をもとに再度強化の内容を吟味をし、オリンピックアジア予選までの強化の目標は、9月に来日が予定されるスエーデン戦で完成することに努める。

一方女子については、この11月下旬から12月上旬におこなわれるチェコでの世界大会を韓国戦を中心に池田、白神両氏が観戦し、その資料と、2月に来日が予定される東独戦（東独の事情により来日未定）の資料にもとづき、アジア予選に対する内容を検討することにしている。

夜の集い二月関催のお知らせ！（下記）

日時　2月26日（月）
午後6時～9時

場所　東京・渋谷・代々木
青少年スポーツセンター
本館3階，第1体育室
（小田急線・参宮橋下車）

主催　東京都ハンドボール協会

参加費　1人 100円

連絡責任者　村田　稔

連絡先　上記宛ＴＥＬ03(407)3731
又は03(441)2110 東京都
ハンドボール協会事務局
まで

日本協会は、懸案のジュニア対策を積極的に推進するとともに、来年開かれる第二回世界ジュニア選手権（男女）への参加を、前向きに検討することとなった。

層の厚いナショナルチームをという声は、すでに、ミュンヘン・オリンピック（一九七二）前から取り沙汰され、いちどは、中学生三選手を含む「ヤング・ナショナル」を編成するなど、意欲的な活動を示した日本協会だが、その線は専任指導者の不足や、「ヤング」そのものに対する理解の欠如などがあって、有名無実の存在になってしまった。

ところが、ナショナルチームの選手の所属が、ほとんど企業チームにあり、その勤務上の都合などから、まだまだ、第一線で活躍できる実力を持ちながら、ナショナルチームから〝引退〟するケースが、目立って増えてきたことや、若手の国際キャリア不足がフルエントリーで戦かう時代となった今チームの欠陥として、大きなマイナスになっていることなどがあって昨年秋あたりから、再びヤング問題がクローズアップされていた。

このため、強化委では、重点テーマの一つとして、ヤング対策を検討。とりあえず、男子は、木野実コーチを専任とする一方、女子も池田新監督自からの指揮下にヤングをおさめて、本格的なスタートを切ることにした。

11月25、26日の全国会議（理事会、代議員会）では、初めて、強化委から、男女ヤングのリスト（前号掲載）が発表され、期待を高めている。

タイミングよく、IHF（国際ハンドボール連盟）では、四年に一度と決めていた男女の世界ジュニア選手権を、二年毎開催に変更

男女の世界選手権目指し
日本協会、ヤング対策を本格化

一九七九年十月に男子はスウェーデン、デンマーク両国にまたがって、女子はユーゴで、それぞれ開く。

このニュースは、日本協会にも伝えられ、12月16日の常務理事会で協議の結果、前向きに検討を加えることとなった。

世界ジュニア選手権は、一九七七年、男女とも第一回を開き、そこで活躍したホープたちが、早くも七八年の世界選手権に登場、国際ハンドボール界全般のフレッシュ・ムードを強めるのに、大きな役割を果たしている。

日本も、正直のところ、男子では、木野、藤中、佐藤、GK本田女子で島田、古佐原、蔵田、GK和田、久保らの穴が、完全に埋まり切っていない。後続との断層が最大因であることは、衆目の一致するところだ。

もし、ヤング対策が、順調に運行されるなら、今後は、こうした悩みも解決されるだろうし、世界ジュニアへの参加が、実現されれば、若い時から国際経験をつめ、ヨーロッパのパワーとテクニックを、肌で知ることができる。

メリットは、極めて大きいだけに、今後のなりゆきに注目したいが、一方で、その運行に、疑問符をつける人も少なくない。

それは、これまでもヤング対策が打ち出されていながら、いつもあやふやな形で処理され、いち時は、ヤングを経なければ、ナショナル入りをさせないとした内規を強化委や、コーチングスタッフ自からが無視したことに、批判も出ていた。

また、かつて、ナショナル（男子）をA、B、ヤングに分け「三段階システム」を謳いながら、それも、いつの間にか消え、ナショナルチーム内の競争意識を高めるといった掛け声も消えてしまった。

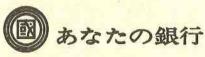
今回にしても、世界ジュニアの開催が、9月のIHF総会時点で八分どおり確実と伝えられながら発表された男子ヤングはGK2、FP8で、チーム編成にはほど遠い。

荒川理事長は、世界ジュニアに参加する時は、「ジュニアナショナル」を作るといっているが、それとヤングとの関連も、いまのままでは、不明確である。

せっかくの好企画、しかも、国際時流にそった事業だけに、ぜひとも成果をあげて欲しいが、そのカギを握るのは、一にも、二にも強化サイドの〝共通理解〟を、早急に、まとめることにかかっている。

購読者の皆様方へ

毎号〳〵大変な発行の遅れのため皆様方には誠に申し訳けのない事と深く反省しております。今現在委員会の立て直しに全力を傾け、4月発行予定号より完璧なものにして行きますので、何とぞ宜しくお願いを申し上げます。

編集委員会　委員長　小松原

全日本教職員ハンドボール連盟研究・紀要……………（下）

ハンドボール競技発展のための課題
～体力面から～

大阪　望月伸三郎

インターハイ出場選手を中心として、体力の実態を把握することによって、ハンドボール選手の適性や体力からみた今後の課題といったものを過去十年間に溯って調査研究してまいりましたが、その概要について報告します。

一、昭和四十三年四十九年までのインターハイ出場選手の体力の実態は次の通りである(表一)、全優秀選手と他の選手と比べてみると優秀選手の平均値は、全ての項目において上回っている。

一、ハンドボール選手の形態、体力における適性をつかむために、文部省のスポーツテストのデータと比較してみると、(文部省の平均値をTスコアーで50とする)形態面ではハンドボール選手は一般の生徒に比べ、Tスコアー値で六・五上回っているが、機能面では〇・五上回っているにすぎない。

これは、柔軟性の項目が一般生徒より劣っているために、全体として低い値になっているからである

女子は、柔軟性が一般生徒とほぼ同程度であるので、形態、機能面とも、Tスコアー値で、四・五ほど優れている。

一、次に世界ハンドボールのトップレベルにあるオリンピックと世界選手権でのデータを考察してみると、モントリオールオリンピックのデータ（表四）では、日本は出場チーム中身長、体重とも最も小さい値を示している。トップクラスのソ連やルーマニアとの形態的ハンディは明白である。女子（表五）も同様である。

世界で初めて十二位以内の一〇位に入った一九七〇年第七回世界

表 1　全優秀選手・インターハイ全選手の体力測定一覧表
（S．43～49年度）（S．43～49年度）

性別	対象	項目／単位	身長	体重	胸囲	指先長	手長 右	手長 左	手幅 右	手幅 左	筋力 握力 右	筋力 握力 左	筋力 背筋力	筋力 反復上体おこし	柔軟性 立位体前屈	柔軟性 伏臥上体そらし	瞬発力 垂直とび	敏捷性 反復横とび	敏捷性 9m三往復走	持久力 踏台昇降5分間
			cm		cm	cm	cm	cm	cm	cm				回	cm	cm	cm	点	秒	指数
男子	全優秀選手	人数	49	49	49	47	48	48	48	48	49	49	49	44	49	48	45	42	44	44
		平均値	173.3	66.1	91.0	219.4	18.8	18.8	21.8	21.7	52.2	48.4	155.7	22.4	14.1	60.7	64.3	46.9	13.8	87.4
		標準偏差値	5.3	5.9	4.3	7.8	0.9	0.9	1.4	1.2	7.2	5.5	28.0	2.7	5.8	6.5	5.1	4.1	0.4	11.8
	インターハイ全選手	人数	529	529	347	509	528	528	525	526	522	523	526	518	529	526	521	515	516	512
		平均値	171.2	62.5	88.6	216.5	18.5	18.5	21.0	20.9	48.5	44.3	147.1	22.1	13.6	57.9	62.7	45.1	14.0	89.0
		標準偏差値	5.2	6.0	4.4	7.3	0.9	0.9	1.2	1.2	6.6	6.1	23.9	2.4	5.4	7.3	6.5	4.0	0.6	11.8
女子	全優秀選手	人数	47	44	44	42	41	40	44	44	45	43	47	43	47	47	46	46	44	45
		平均値	161.1	57.1	88.6	203.0	17.4	17.6	19.4	19.4	36.8	33.1	108.2	13.9	16.8	61.3	50.0	43.8	14.8	90.6
		標準偏差値	3.7	4.5	2.6	5.0	0.8	0.9	1.0	1.0	4.7	4.0	19.9	2.9	5.6	6.4	5.1	4.1	0.5	12.6
	インターハイ全選手	人数	520	521	348	508	519	520	518	519	520	514	517	515	517	516	518	512	515	507
		平均値	158.9	54.5	82.6	199.9	17.0	17.1	18.9	18.8	33.3	30.2	100.0	13.7	17.2	60.6	48.0	42.2	15.0	90.7
		標準偏差値	4.6	5.2	3.5	6.9	0.8	0.9	1.1	1.1	5.0	4.7	18.4	1.7	5.0	6.1	5.5	3.3	0.6	12.1

表 2　文部省・インターハイ全選手の体力測定一覧表
（S．48年度）（S．43～49年度）

性別	対象	項目／単位	身長	体重	胸囲	筋力 握力平均	筋力 背筋力	柔軟性 立位体前屈	柔軟性 伏臥上体そらし	瞬発力 垂直とび	敏捷性 反復横とび
			cm		cm			cm	cm	cm	点
男子	S48年文部省	人数	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		平均値	168.4	58.1	84.8	45.3	137.0	15.7	59.5	61.6	44.6
		標準偏差値	5.2	6.8	4.9	6.6	22.6	5.3	7.9	7.2	4.6
	インターハイ全選手	人数	529	529	347	518	526	529	526	521	515
		平均値	171.2	62.5	88.6	46.6	147.1	13.6	57.9	62.7	45.1
		標準偏差値	5.2	6.0	4.4	6.0	23.9	5.4	7.3	6.5	4.0
女子	S48年文部省	人数	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		平均値	156.5	51.7	80.6	29.6	86.7	17.7	60.3	43.5	39.4
		標準偏差値	4.8	5.9	4.3	4.6	17.5	4.7	6.3	6.1	3.9
	インターハイ全選手	人数	520	521	348	513	517	517	516	518	512
		平均値	158.9	54.5	82.6	31.4	100.0	17.2	60.6	48.0	42.2
		標準偏差値	4.6	5.2	3.5	4.4	18.4	5.0	6.1	5.5	3.3

選手権でのデータ（表六）をみると外国との差は、身長で4cm体重10kgである。その6年後のモントリオール大会では、日本は、身長体重とも大型化したものの、世界との差を比べてみると（表7）体重はつめたものの身長では、ますます水をあけられている。世界のトップレベルをいくバレーボールでは世界に見劣りしない人材を集めている。ハンドボールも世界に負けない人材を積極的に集める策をとるべきである。そこで今後のナショナル候補選手の形態資格を提言したい。

（提言）　ナショナル候補選手の形態資格

男子…身長180cm以上、体重80kg以上。

女子…身長170cm以上。体重60kg以上。

（大阪府立牧野高等学校）

図1　文部省・インターハイ全選手を形態面と機能面より比較

図2　文部省・インターハイ全選手のプロフィールによる比較

中円の部分が文部省値

表3　メキシコキャンプ世界青少年・インターハイ全選手・文部省との比較

性	対象＼項目	身長 cm	体重 kg	50m走 秒	握力 kg	懸垂 斜懸垂	反復上体おこし 回	立位体前屈 cm	人数
男子	メキシコキャンプ世界青少年	173.4	65.2	6.9	49.5	7.5	24.0	9.9	200
	インターハイ全選手	171.2	62.5	—	46.4	—	22.1	13.6	530
	文部省	168.5	58.2	7.15	44.8	8.8	—	—	550
女子	メキシコキャンプ世界青少年	162.5	54.9	8.3	32.7	17.1	18.4	8.0	115
	インターハイ全選手	158.9	54.5	—	31.7	—	—	17.2	520
	文部省	156.8	51.5	8.5	29.0	32.7	—	17.6	550

表 4　モントリオール男子

順位	国　名	身長	体重
1	ソ　　連	188.5	89.2
2	ルーマニア	189.0	88.0
3	ポーランド	187.2	86.4
4	西　　独	190.2	87.5
5	ユーゴー	187.7	86.8
6	ハンガリー	187.4	86.0
7	チ エ コ	181.5	80.7
8	デンマーク	187.0	81.0
9	日　　本	180.8	77.2
10	アメリカ	191.3	88.3
11	カ ナ ダ	184.5	80.1
12	チユニジア	183.8	82.9
計		2238.9	1014.1
平　均		186.6	84.5
日本を除く平均		187.1	85.2

表 5　モントリオール女子

順位	国　名	身長
1	ソ　　連	172.3
2	東ドイツ	170.5
3	ハンガリー	173.3
4	ルーマニア	172.3
5	日　　本	163.3
6	カ ナ ダ	169.9
計		1021.6
平　均		170.3
日本を除く平均		171.7

表 6　世界で初めて12位以内の10位に入った1970年
第7回世界選手権大会

順位	国　名	身長	体重
1	ルーマニア	185.0	82.0
2	東ドイツ	182.0	80.0
3	ユーゴー	184.0	81.0
日本を除く参加15ヶ国平均		183.0	82.0
日　本（10位）		179.0	72.0
差		4.0	10.0

表 7　モントリオール参加選手

		身長	体重
男子	日本を除く11か国平均	187.1	85.1
	日　本（9位）	180.8	77.2
	差	6.3	7.9
女子	日本を除く5か国平均	171.7	
	日　本（5位）	163.3	
	差	8.4	

ハンドボールにおけるクィックジャンプシュートの実験的研究

東京　土井秀明

はじめに

ハンドボールは敵、味方が同一コートにいりみだれて攻防をくりかえすゲームであるのであらゆる場合、運動動作は外部状況に制御されているか、また、それに適応していなければならない。

今回は、ハンドボールにおけるジャンプシュート動作をとりあぎたが、もちろんこのシュート動作はゴールキーパーに対応した動作であることが大切である。

対応動作を満たす条件として、一、方向(空間)、二、時間、三、動作の要因が考えられる。本実験は、ゴールキーパーが最終的なミート動作を行なう上で必要な予測要因、主に時間的要因であるシュート方向の正確性について考察した。

ゴールキーパーに時間的要因の判断を狂わせるためには、シューターのシュートタイミングの幅が大きいことすなわちボーキャッチ後できるだけはやくシュートを行なえ。またできるだけおそくシュートを行なえることが必要である。しかし本実験は、前者のクィックジャンプシュートをとりあげたにすぎず、シューターの熟練性を述べるには不備を感じるが了解いただきたい。

一、研究の目的

本実験は、ボールキャッチの高さを各被検者の手伸、かた、腰、ひざの位置に変え、熟練者と未熟者にクィックジャンプシュートを行なわせ、パフォーマンスとしての正確性、ボールキャッチ〜ボールリリースまでの動作時間、リリース後のボールスピードを比較、検討することにより、クィッジャンプシュートの熟練性を解明する手がかりを得ようとしたものである。

二、研究の方法

(1)　被検者

熟練者（関東大学一部リーグプレーヤー）三名

未熟練者（筑波大学サッカープレーヤー）三名

(2) 実験の方法

ゴールポストの代わりとして練習用ゴールボード板を利用し、そのゴールを9等分して得点化したまたボールを各被検者の手伸、かた、腰、ひざの位置につりさげ、ゴールポスト正面9ｍの位置に設置した。被検者にクィックジャンプシュート10回を1セットして、それぞれのボールポジションで1セット、合計4セット行なわせたその時、被検者にボールキャッチ後「すばやく」「全力で」シュートを行なうように指示し、ゴールの左上、左下、右上、右下の方向にシュートをねらうようにランダムに指示した。これらのシュート動作を VOLEX16mm カメラ（64コマ PER SECOND）で側面から撮影した。

(3) 整理の方法

ア 得点化したゴールボード板により、正確性を求めた。

イ 16㎜フィルムより、モーションアナライザーを使用して被検者の運動経過を求め、ボールキャッチボールリリースまでの動作時間、リリース後のボールスピードを求めた。

ゴールボード板

3点	2点	3点
2点	1点	2点
3点	2点	3点

ボールの位置

手伸

かた

腰

ひざ

9ｍ

30ｍ

VOLEX

16mmカメラ

（実験配置図および装置）

（点）

		H	W	Ko	U	Ka	M
手伸	$\overline{X}$	1.8	2.8	2.4	1.5	2.5	1
	SD	1.5	0.4	1.2	1.0	0.9	1.1
肩	$\overline{X}$	2.1	3	2.9	1.2	2.2	1.3
	SD	1.4	0	0.3	1.1	1.2	1.1
腰	$\overline{X}$	2.4	1.9	2.4	2.3	2.6	2
	SD	1.2	1.3	0.9	0.5	0.5	0.8
ひざ	$\overline{X}$	2.4	2.2	2.7	2.2	1.9	1.7
	SD	1.2	1.2	0.9	1.2	1.3	1.3
計	$\overline{X}$	2.2	2.5	2.6	1.8	2.3	1.5
	SD	1.3	1.0	0.9	1.1	1.1	1.1

各被検者の得点

m／sec

		H	W	Ko	U	Ka	M
手伸	$\overline{X}$	17.52	19.26	18.21	17.97	16.98	14.58
	SD	0.78	1.17	0.89	0.82	0.74	0.61
肩	$\overline{X}$	18.34	20.21	19.5	19.64	17.37	16.54
	SD	0.88	0.67	0.98	1.33	1.46	0.89
腰	$\overline{X}$	18.48	19.00	18.51	18.31	17.66	16.94
	SD	1.36	1.03	0.91	1.55	1.20	0.67
ひざ	$\overline{X}$	17.96	17.26	17.29	17.23	17.59	15.65
	SD	1.83	1.25	0.88	1.92	1.23	0.77
計	$\overline{X}$	18.10	18.89	18.38	18.32	17.43	15.97
	SD	1.26	1.72	1.39	1.65	1.14	1.15

BALL POSITIONの違いによるリリース後のBALL SPEED

（回数）

	H	W	Ko	U	Ka	M
3 点	29	29	32	11	24	8
2 点	0	5	4	19	10	17
1 点	0	0	0	1	0	2
0 点	11	5	4	9	6	13

各被検者の得点分布

（秒）

		手伸	肩	腰	ひざ
熟練者	$\overline{X}$	0.42	0.432	0.448	0.48
	SD	0.03	0.034	0.058	0.061
未熟練者	$\overline{X}$	0.452	0.536	0.584	0.586
	SD	0.053	0.087	0.137	0.038

BALL POSITIONの違いによるBALL CATCH〜リリースまでの動作時間

（秒）

		H	W	Ko	U	Ka	M
BALLCATCH〜境界時	$\overline{X}$	0.29	0.23	0.21	0.32	0.34	0.30
	SD	0.044	0.027	0.016	0.047	0.045	0.09
境界時〜RELEASE	$\overline{X}$	0.20	0.21	0.20	0.26	0.22	0.18
	SD	0.032	0.031	0.02	0.048	0.037	0.026
BALLCATCH〜RELEASE	$\overline{X}$	0.49	0.44	0.41	0.58	0.56	0.48
	SD	0.059	0.036	0.02	0.055	0.056	0.089

（運動経過における動作時間）

三、結果と考察

(1) 正確性

未熟練者Kaを除いて、熟練者より高い正確性を示していた熟練者、未熟練者も共に指示された左上、左下、右上、右下の各方向にシュートを行なったわけであるが、熟練者の方が未熟練者より指示された各方向の3点に的中した回数が多かった。

(2) 動作時間

未熟練者Mを除くと、熟練者は未熟練者よりボールキャッチ〜リリースまでの動作時間が少なかった。熟練者と未熟練者間の動作時間の差は、ボールキャッチから準備局面までの差であった。熟練者は、未熟練者に比べて、ボールポジションがキャッチしやすい状態からキャッチしづらい状態になってもボールをすぐに準備局面へ移動させて動作時間の短縮に努力していた

(3) ボールスピード

未熟練者Uを除いて、熟練者に比べてリリース後のボールスピードがまさっていた。

（日本女子体育大学）

小学生のハンドボールの指導における一考察

—使用するボールの大きさについて—

愛知　角　紘昭

I 研究のねらい

ボール運動の中でハンドボールは走、跳、投の運動要素を持ち、しかも、たて15〜20ｍ、横30〜40ｍという比較的せまい場所で十分な運動量を得ることができる。

このことから、小学校の児童にこの運動を通して、器用な動きとねばり強い体力を身につけさせるのに適していると考えた。

ところが、実際に指導してみると、次のようなことが見られた。

○パス、シュートが不正確である。

○スピードのあるボールを投げることができない。

○ゲームの中ですばやく敵、味方を見分けられない。

これらの原因には、動きながらボールを扱ったり、ボールの操作と敵・味方の判別をほぼ同時に行う訓練が十分にできていないなど

のことが考えられる。

そして、その中でも、使用しているボールの大きさ、重さが大きな原因の一つになっているとも考えられるため、ここでは、器用な動きを身につけさせるボールの大きさ、重さと投、捕の関係を明らかにしようと考えた。

<ボールの比較>　表1

	外周 (cm)	重さ (g)
0号　ドッチボール	49 ～ 52	200 ～ 220
教育1号　〃	57 ～ 59	230 ～ 250
教育2号　〃	61 ～ 63	300 ～ 320
女子・少年ハンドボール	54 ～ 56	325 ・ 400
一般男子　〃	58 ～ 60	425 ～ 475

Ⅱ　研究の方法と内容

一、方法

(1) 投、捕のフォーム分解（モータードライブカメラ使用）

(2) パスの回数調べ

(3) 投力調査

(4) 質問紙によるアンケート

（調査の対象小学校4、5、6年の抽出児童40名）

二、内容

(1) 投、捕のフォーム分解

図1～4のように、大きい、重いボールを使った場合、両手をそえたり、手のひらに乗せて投げるため、コントロールが悪くなったり、視野がせまく、動作が遅くなったりする。また、小さい、軽いボールを使った場合には、ボールを手の中で十分コントロールできより正確に投、捕ができることがわかった。

<ボールの捕>

図1　0号ボール　1号ボール

→技能の劣っている児童（図1）は、0号、1号のどちらのボールを受ける場合でも腹を使っているが、安定して受けているのは、大きいボールの場合である。

図2　0号ボール　1号ボール

→技能の優れている児童（図2）は手の中に入る0号ボールを受ける場合には、手首をよくおこして受けているが、大きいボールになると、はさみつけるような受け方をする。

<ボールの投>

図3　0号ボール　2号ボール

技能の劣っている児童の場合、0号ボールを投げる時は、ボールを手の中でコントロールしているが、2号ボールでは、手のひらにのせているだけである。また、その場合、手のひらの上のボールのバランスをとるために、ひじが下がり、からだも傾け、非常に不安定なフォームになっている。

図4　0号ボール

2号ボール

技能の優れている児童の場合（図4）0号ボールを投げる時、ボールは手の中でしっかりとコントロールされ、ひじも上がってよいフォームとなっている。

しかし、2号ボールの場合は、手の中で十分コントロールされていないため、左手をそえている。これでは、視野が狭くなってしまう。

しかし、ボールを受ける時は、殊に技能の劣る児童にとって、0号よりすこし大きなボールの方がやりやすいようである。

(2) パスの回数調べ

0、1、2号ボールを使い5m間隔で、30秒間のパスの回数を調べた。

ボールの大小で比べると、男女とも明らかに、ボールが小さいほど回数は多くなっている。

一般的に、女子に比べ男子は、

<30秒パスの回数調べ>　表2

	0号	1号	2号
男子	13.7回	11.9	10.3
女子	10.3	9.9	9.2

<遠投力調査>　表3

	0号	1号	2号
男子	21.2m	20.1	19.3
女子	12.3	11.8	11.6

ボール運動が優れているといわれているが、男子の0号と2号ボールのバス回数を比べると、ボールが大きく重くなった方が、回数は著しく減っている。

これは、技能の優れているものでも、ボールが大きく、重くなるとコントロール、身のこなしなどに影響が現れてくるといえる。

(3) 投力調査

0、1、2号ボールでの遠投力を調べた結果、表3のようにボールが小さく、手の中でよくコントロールできるものほど、遠くへ投げることができる。

(4) 質問紙によるアンケート調査

これまでの調査により、バスの回数、遠投などは、いずれも0号ボールを使用した方がよい結果がでることがわかった。

ここで、実際に投げたり、捕ったりした時のボール扱いの感想を質問紙によって調べてみた。

<ボール扱いに関するアンケート> 表4

		0号	1号	2号
男子	いちばん投げやすいボールは？	50%	30	20
	いちばん受けやすいボールは？	77	11	12
女子	いちばん投げやすいボールは？	54	32	14
	いちばん受けやすいボールは？	22	72	6

男子の場合、投げやすゝ受けやすいボールは0号ボールに集中している。

女子の場合は、投げやすいボールは0、1号ボール、受けやすいボールは1号ボールというように分かれている。

一般的に技能の劣っている女子にとって、ボールを受けるとき、0号ボールでは小さすぎて受けにくいことを示している。

Ⅲ まとめ

これまでの調査から、小学校のハンドボール指導では、児童の運動能力を十分に発揮させ、技能を高めさせるには、0号ボールのように、小さなボールの方がよりよいといえる。

しかし、図1、表4からわかるようにボールを受ける場合には、0号ボールでは、やや小さすぎることもわかった。

これは、使用したボールが0、1号ボールであったためで、0、1号ボールの間のボール（53～56㎝、220～240g）があればより詳しいことがわかったと思われる。

今後の問題点として考えられることは、次の点であろう。

○小学生の児童を対象としたハンドボール用のボールを決めること。

○ボールの型を決める際に、学校体育で使われている教育ドッチボールとのかね合いをどうするか。

ハンドボールの防御に関する実験的研究
—予測とタイミングコントロールについて—

東京 平岡 秀雄

△研究目的▽

ハンドボールにおいて、防御を行なうためには味方防御者と攻撃者及びボールの動きの中にあるさまざまな情報の中から防御に必要な情報を収集し予測することが必要であり、その予測に基づいて動作時機を判断し、相手の動きにタイミングを合わせることが要求される。

本研究は、ボールを持った攻撃者がシュート又はフェイントを行なう場合、その準備動作（助走）の段階で熟練者と未熟練者とがどの程度正確な予測を行なうことができ、タイミングコントロールができるかを解明するとともに、予測の要因の一部たりともを究明するために行ったものです。

△研究方法▽

実験に必要な映写用フィルムを作製するために、東京教育大学ハンドボール部員にシュート及びフェイント（左右二方向）を行なわせ、ゴール後方から16㎜カラフィルムにより24コマ／秒で60シーンを撮影した。撮影したフィルムは第一段階として方向変換をする軸足が一歩前の時、第二段階は軸足着地が空中の時、第三段階は軸足踏切り時、の時、第四段階は軸足踏切り時、第四段階に分類してそれぞれの時機までくると画面が消失するように編集した。消失したフィルムは約10秒後にその動作の後半部が再現するようにした。

図1

スクリーン
フォトセル (Cd)
ストレインメーター
ブリッジ回路
アンプ
ビジグラフ
映写機

編集したフィルムを映写する際図1のような装置を設置した。画面と映写機の間にストレインメーターを置き、被験者はその上に立つ。画面前にはCdセルがあり、画面消失時の光量変化をビジグラフに入力させる。被験者の動作時機はストレインメーターにより動作時の板の歪をビジグラフに入力させる。以上のようにして画面のプレーヤーの動作と被験者の動作とを同調させた。被験者には画面に写った攻撃者の準備動作を見て予測させ。画面消失後マスキングの状態で攻撃者が方向変換をすると思われる時機に合わせてその予測した方向に動作させた。

被験者の動作方向は、ビジグラフの記録用紙にその都度記入していった。

△実験の構成▽

実験1 目的：熟練者と未熟練者の各方向、各段階での予測の的中率及びタイミングエラーを調べる

結果と考察：表1に見られる通り、未熟練者は熟練者に比べ予測能力は低いが、タイミングコントロール能力は逆に未熟練者のほう

表1

被験者	段階	シュート 予測的中率%	シュート タイミングエラー X̄	シュート タイミングエラー S.D	フェイント左 予測的中率	フェイント左 タイミングエラー X̄	フェイント左 タイミングエラー S.D	フェイント右 予測的中率	フェイント右 タイミングエラー X̄	フェイント右 タイミングエラー S.D
熟練者	1	67	0.23	0.20	27	0.21	0.22	33	0.24	0.12
	2	87	0.13	0.09	53	0.16	0.20	80	0.24	0.20
	3	87	0.21	0.08	100	0.28	0.11	93	0.23	0.11
	4	100	0.17	0.11	100	0.20	0.12	100	0.26	0.14
未熟練者	1	20			13			13		
	2	60	0.15	0.26	13			60	0.17	0.22
	3	60	0.36	0.15	73	0.20	0.11	100	0.18	0.19
	4	93	0.30	0.12	87	0.16	0.10	93	0.17	0.13

が良かった。

実験2　目的：未熟練者は熟練者と同一のフィルムを見ていたにもかかわらず予測能力が劣るのは、情報が複雑すぎて防御に必要な情報を選択できなかったためだと思われる。そこで両者間に特に差の大きかった第2段階でのシュート及びフェイントをフィルムにより動作分析を行ない、その相違点を指導し、再度実験を行った。

指導上のポイントは以下の通りである。

シュート一、軸足側の腰がゴール方向に向いている。
　　　　二、軸足がゴール方向に踏出されている。

フェイント一、腰がゴール方向と垂直になっている。
　　　　　二、軸足がフェイント方向の反対側に踏出されている。

結果と考察：

表2の様に実験2の結果、予測的中率に関して、未熟練者は各方向、各段階で実験して行った熟練者の結果に近くなった。また、シュート方向第2段階とフェイント右方向第3段階では熟練者より良い結果を得た。

タイミングコントロールに関して、未熟練者は画面の動きに対して、熟練者よりもタイミングの合っている箇所が多いが、これは熟練者が画面の動きに対して、予測した方向と反対の方向への逆フェイント（二重フェイント）をも予測して早い時機でも高い確率で予測することができるが動作開始時機を遅くしたためではないかと思われる。

〈結論〉

以下にある指導上のポイントは予測の要因となりうるものであり予測の要因として大きな比重をしめるものである。

表2

被験者	段階	シュート 予測的中率%	シュート タイミングエラー $\overline{X}$	シュート タイミングエラー S.D	フェイント左 予測的中率	フェイント左 タイミングエラー $\overline{X}$	フェイント左 タイミングエラー S.D	フェイント右 予測的中率	フェイント右 タイミングエラー $\overline{X}$	フェイント右 タイミングエラー S.D
未熟練者	1	53	0.10	0.13	0			27		
	2	93	0.37	0.33	33	0.08	0.22	73	0.08	0.21
	3	87	0.20	0.15	93	0.15	0.17	100	0.10	0.18
	4	100	0.18	0.09	100	0.07	0.17	100	0.09	0.22

表3

シュート $\overline{X}$	シュート S.D	フェイント左 $\overline{X}$	フェイント左 S.D	フェイント左 有意差	フェイント右 $\overline{X}$	フェイント右 S.D	フェイント右 有意差
57.6	3.72	77.4	8.31	0.1% 有り	76.2	3.12	0.1% 有り

左腰　右腰
膝
足首
シュート
フェイント左
フェイント右

〈資料〉

シュートの場合○軸足測の腰がゴール方向を向いている。
　　　　　　　○軸足がゴール方向に踏出されている。

フェイントの場合○腰がゴール方向と垂直になっている。
　　　　　　　　○軸足がフェイント方向の反対側に踏出されている。

（東海大学）

あとがき

会長の巻頭言にみられるようにわれわれ教職員連盟は、技術の研鑽指導と科学的研究資料のまとめという、文武両道のハンドボール生活を続けてきた。

今回第一集はあるいは諸賢にとって拙劣なものかもしれない。しかし「生み出さなければ歩きださない」という信条から理事会の全面的賛成を得て発刊へ踏み切った

われわれの意図測察の上御指導をお願いして止まない。

最後にはなりましたが、この紀要発刊に惜みない絶大の御協力を賜った講談社に対して、全幅の感謝の意を表明してあとがきにしたい。

編集同人　大西　武三
　　　　　遠藤　健次
　　　　　金子　永二
　　　　　高橋　健夫

第一回日本体育協会公認ハンドボール競技上級コーチ養成講習会（専門教科）実施要項

本講習会は「(財)日本体育協会公認スポーツ指導者制度」に基きハンドボール競技の競技力の向上と普及をはかるために行なわれるものである。

ナショナルチームの強化に携わるスタッフや各地域で活躍する中核的指導者、あるいは将来の世代を担うべき指導者が一堂に会し、ハンドボールのあり方と進むべき方向を追求するなかで本来の目的を達しようとするものである。

主催　(財)日本体育協会
(社)日本ハンドボール協会

後援　文部省

期日　昭和54年2月26日(月)~3月3日(土)

会場　オリンピック記念青年総合センター

参加資格

(イ) 昭和53年4月1日で満27才以上の者

(ロ) a 公認スポーツトレーナー(1、2級)有資格者で、各都道府県ハンドボール協会が推薦し、日本ハンドボール協会が認めた者。

b 相当の指導歴と競技歴を有し、各都道府県における中心的指導者として各都道府県ハンドボール協会が特に推薦し、日本ハンドボール協会が認めた者。

c 相当の指導歴と競技歴を有し、将来のナショナルコーチ候補者として日本ハンドボール協会が特に指名した者。

※参加資格として上記項目を原則とし、公認スポーツトレーナー有資格者を優先する。

参加人員　約五十名

取得資格

本講習会の指定講義を受講し所定の資格試験に合格した者に対しては「(財)日本体育協会公認スポーツ指導者制度」における公認ハンドボール競技上級コーチ養成講習会の「専門教科書修了者」とみなす。

なお、別に行なわれる共通教科講習会も受講し、所定の資格検定試験に合格し、日本ハンドボール協会を経て(財)日本体育協会に登録した者については「(財)日本体育協会公認ハンドボール競技上級コーチとして公認するとともに「公認登録証」を交付する。

※(財)日本体育協会公認スポーツトレーナー(1、2級)の有資格者については共通教科を免除する。

参加者に対する補助

(イ) 旅費　所属県庁所在地又は居住地いずれかの最短距離による講習会開催地までの往復鉄道運賃三〇〇kmをこよる場合は特別急行料金。一〇〇km以上三〇〇km未満の場合は普通急行料金を支給する。

(ロ) 宿泊費　一泊一、五〇〇円×泊分　七、五〇〇円

※別に実施する共通教科講習会についても同様の補助を行なう。

参加料　七、五〇〇円

※別に実施する共通教科講習会についても同額七、五〇〇円の参加料を徴集する。

教科と日程

		第1日	第2日	第3日	第4日	第5日	第6日
1時限	8:30~10:00		5) コーチ論(1)(総論)	10) 審判法	15) コーチ論(4)(女子の指導法)	20) ゲームの評価方法とその処置	25) テスト
2時限	10:20~11:50	受付 10:00~10:30 開校式 10:40~11:40	6) ハンドボールのキネシオロジー	11) コーチ論(2) ゲームにおけるコーチ	16) コーチ論(5) トレーニングの評価とその処法	21) ハンドボールにおける傷害とその処置	26) テスト
3時限	13:00~15:00	1) ハンドボール競技の特性 2) 競技規則	7) ハンドボールの適性とトレーニング	12) 技術と指導法	17) 技術と指導法	22) 個人戦術と指導法	閉校式 13:00~13:50
4時限	15:20~16:50	3) 競技規則	8) ハンドボールの適性トレーニング	13) 戦術と指導法	18) 戦術と指導法	23) 個人戦術と指導法	
5時限	19:00~20:30	4) ハンドボールの歴史	9) 国際・国内組織と運営	14) コーチ論(3) 他競技の場合	19) 世界のハンドボール状勢	24) 全般にわたっての研究討論	

その他

(イ) 筆記用具，トレーニング用服装一式，靴，日用品等持参のこと．

(ロ) 本専門教科講習会を受講する者は，別紙要項による共通教科講習会を受講しなければならない．
(原則として同一年度内に受講のこと)

☆いま、話題のハンドボール新聞です!!☆

スポーツイベントハンドボール好評!

毎月10日・25日発行

新鮮なニュースの〝缶づめ〟を

お届けします――。

豪華な編集・執筆陣で豊富な記事が、いっぱい!

年間購読料 3,600円 (前納 送料共)

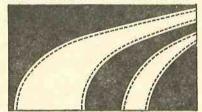
購読希望の方は本社へ葉がきか封書または電話でお申し込み下さい。折返し振替用紙をお送りします。

株式会社 スポーツイベント

【本社】東京都千代田区富士見1－2－32
(東京ルーテルセンター103号)
TEL 03 (264) 4071 (代)

スポーツ専用靴

Nippon Rubber Co., Ltd.

総代理店　足利アサヒ販売KK

競技者のためのアダックスライン

日本ハンドボール協会公認球

一番広く使はれて居る!

セプター号

サービス部
新宿区新宿2丁目電停前
TEL (341)2979・1016

望月運動用品KK

東京都墨田区横川橋4丁目6
TEL 本所 (622)0746

財団法人 日本ハンドボール協会
設立趣意書

わが国にハンドボール競技が紹介されてから半世紀になります。このハンドボール競技は徐々にではありますが確実に国民の中に定着し始め、昭和13年わが国のハンドボール競技団体を統括する日本ハンドボール協会が設立されてから、第二次大戦による中断はあったものの、広く、かつ、急速に普及してまいりました。

とくにここ十数年は、従来の学校スポーツの域を出て広く社会に浸透し、現在日本ハンドボール協会に登録しているチームだけでも男女合わせて約二、六〇〇チームを数えるまでにいたりました。

日本ハンドボール協会は、現在国内では各種別選挙権、総合選手権、日本リーグその他の競技会を開催し、競技規則の統一、ハンドボールの普及、技術の向上に努力を傾注し、対外的には日本を代表してオリンピック、世界選手権大会などに選手団を派遣しております。

ここ十年は国際的にもわが国の競技力の水準は飛躍的に向上し、一九七六年モントリオールオリンピックにおいては、本場のヨーロッパ勢に伍し、女子五位入賞、男子九位の成績を印しました。

現在の七人制ハンドボール競技は近代スポーツのうちでも最も理想的なスポーツの一つといわれ、これが普及は、国民の総合的な体力の向上に貢献するところ甚だ大であります。

ハンドボールの普及、発展に伴ない、国内はもちろん、海外の関係諸団体の交渉もさらに密接となり、日本ハンドボール協会の果たすべき役割と責任はますます重大となりつつあります。

ここに、わが国におけるハンドボールの組織をより緊密なものとし、その財政的基盤をより確固たるものとするために、現在の日本ハンドボール協会を設立し、もつて強力かつ広範な活動を期することを決意いたしました。

各位のご理解とご協力をお願いする次第であります。

財団法人 日本ハンドボール協会
設立代表者 斎藤英四郎
（新日本製鉄株式会社社長）

こんなとき便利な ダイワ キャッシュカード。

日常のお引き出しに…
カード1枚で現金自動支払機から手軽に現金が引き出せます。通帳もハンコもいりません。サイフがわりにご利用を…。

時間外のお引き出しに…
ダイワの外壁に面したキャッシュコーナーや☑マークのコーナーでは、平日午後5時土曜午後2時まで現金が引き出せます。

ご出張やお買物の折に…
お出かけ先で現金がご入用になったときダイワの全店にあるキャッシュコーナーや☑マークのコーナーがお役に立ちます。

給与のお引き出しに…
給与振込制をご採用の場合は、お給料日の朝からカードを使って引き出せます。奥さまもご自宅近くのダイワでどうぞ…。

ダイワキャッシュカードは総合口座（普通預金）をご利用の方におつくりしています。お気軽にお申込みください。

あなたと明日を
預金も
信託も…
大和銀行

☑マークのコーナーでは設置場所により、お取扱い時間が異なる場合があります。また、日・祝日および設置場所の休業日はお取扱いしません。

☆★☆★☆★☆★☆★☆★

海外トピックス

——杉山 茂——
（NHK運動部）

IHF、AHFが総会

九月に、IHF（国際ハンドボール連盟）、十二月に、AHF（アジアハンドボール連盟）の総会が相次いで開かれた。

この二つの会議で、なによりも目立ったのは、ハンドボールが、ますます＜世界のスポーツ＞として発展しているのが示されたことだ。

つい、十年前まで、ハンドボールは、誰の目にも＜ヨーロッパのスポーツ＞としか、写らなかったIHF関係者も、アジアにおける日本、アメリカ大陸でのアメリカ、アフリカでのエジプトなどの〝活躍〟を喜びながら、＜ヨーロッパのスポーツ＞であることへの自負は、相当なものがあった。

近年ハンドボールが、＜世界のスポーツ＞としての道を、着実に歩んでいるのは、ヨーロッパ大陸外の国々での普及ぶりが最大因である。

一九七〇年代に入ってから、すでにヨーロッパのハンドボール国は、頭打ちとなり、今秋、久々にギリシャ、トルコを迎えて二十九カ国としたが、もう、あと残るはアイルランド（準加盟）、アルバニア、マルタ、モナコぐらいのものだ。

それに引きかえ、他の大陸は、これから、という国がひしめく。

総会での新加盟国は九カ国だったが、内訳は、アジア5、アフリカ、ヨーロッパ各2。

IHF加盟74カ国の〝勢力分布〟は、ヨーロッパ29、アフリカ21アジア18、アメリカ6と変った。

大勢力となった「三大陸」

アフリカとアジアの合計数が、ヨーロッパとアメリカのそれを上廻ったのは、史上初めてのことである。

すでに、ヨーロッパ×三大陸は一九七四年の総会時点で、三大陸側がしのいでいたのだが、今回で例え、ヨーロッパ勢がアメリカ勢の加担を受けたとしても、総会での過半数を得ることができない。

国際スポーツ会議の通例で、これは、極めて大きなことである。

ヨーロッパが動かしていたIHF並びに世界のハンドボール界が全地域の平均した力によって支えられることになり、やがては、アフリカ、アジアが主導権を握る日が来るのも、夢ではなくなった。

事実、総会に出席した日本協会・荒川清美理事長の話では、ヨーロッパカップに関する議題が長引くと、とたんにアフリカ代表から「一地域に関わるテーマは、あと廻し、あるいは、今後は総会で採りあげぬように」と釘がさされたそうだ。

IHF側の気のつかいようも、数年前とは大違いだ。

今春二月の世界男子選手権で、日本が十二位以内に食いこんだ実績を評価、一九八二年の次大会から アジア大陸代表を、初めて二カ国にすることを決めた（注・日本が自動的出場権を得たわけではない）。

また、ヨーロッパのある国から「アジア、アフリカ、アメリカ各大陸が世界選手権のAグループに直結しているのはおかしい。Bグループに廻すべきではないか」という動議が出されたが、IHF執行部は、審議もせずに却下している。

中国、ヨーロッパ遠征

一方、AHFのハナ息は、一年たつごとに上っている。

「アジアは一つ」とした、その〝団結〟には、多分に政治嗅もあるが、少なくとも、四年前のAGF（アジア競技連盟）評議員会でいきなり推案した「ハンドボールのアジア大会入り」を承認させたパワーは、注目に価する。

十六カ国の代表を集めた今回の総会は、一九七六年一月クウェートに十四カ国による第一回総会～日本欠席～に次ぐもので、来年のアジア選手権の期日を、四月または十一月とした。十一月に、モスクワ・オリンピックアジア地域予選があることを承知の上での申し合せとしたら、このあと、大きな波紋を投じよう。

しかも、開催地は中国に確定しており、それまでに、中国のIOC（国際オリンピック委員会）復帰が成っていれば、この予選そのものの意味が変わることも、予想しておかなければならない。

中国は、まだIHFには未加盟だが、戦力整備は、着々と進んでいるようだ。

十一月末には、男子ナショナルチームが初めてヨーロッパ遠征を行ない、第四国フランス国際に参加している（一勝三敗で四位）。

中国チームのヨーロッパ行きは一九六五年、中国軍隊選抜がレニングラードに遠征して以来、十三年ぶりのことだが、今回の〝登場〟は、ヨーロッパの専門家、スポーツライターたちに、「国際ハンドボール界が、はっきり新しい時代を迎えつつあること」を示す、何よりも具体的な行動として受けとられたようである。

プレス・ルーム ＜14＞

杉山　茂
——（ＮＨＫ運動部）—

■お粗末な「情報制限」騒ぎ

十月二十五日、全日本女子監督の発表を取材して帰ってきた同僚の言葉は、一瞬、なんの意味か判らなかった。

日本協会の代表者が、記者クラブで「日本の情報が、一方的に海外に流れ、全日本の試合を不利にしている。今後は、皆さんへの情報提供や、ニュースの掲載を制限することも考えているので、協力して下さい」と〝要望〟したというのである。

「それで、どうなった?」と僕

「あまり、突拍子もない話なので みんな、笑って本気にしなかったみたい……」と同僚。

記者クラブでの、ジョークにしては、度が過ぎているが、それでも、その日集ったライターたちは穏やかに散会し、翌日、「池田新監督」を、記事にしてくれた。

六月の世界女子選手権アジア予選で敗れてからというもの、日本協会、とりわけ、強化委員会周辺の情報アレルギー、マスコミアレルギーは、相当なものがある。

その上、敗因の一つに、相手側の情報不足と、こちらの情報の無防備が、真けんになって、採りあげられている。

相手側に対するデータの不足はたしかに、敗因に数えてよいかもしれぬ。日本協会として反省すべき課題だ。

しかし、こちらの情報が、筒抜けなのを、マスコミのせいにされては、たまらない。

まして「報道管制」にも受けとられるような発言をするのは、あまりにも、非常識である。

第一、日本協会は、最近どれだけの〝情報〟を提供してくれただろうか。

また、全日本チームのメンバーを、身長や利き腕の注釈つきで活字にしたところで、どれだけ、ライバル国に、プラスがあるというのか。

仮に、それだけの資料で、相手が、日本の戦力を分析、策戦をたてたとしたら、その能力は、賞讃に価しこそすれ、国内に、八つ当りする理由は、どこにも見当らない。

外国の情報にしてもそうだ。集めようとする努力、分析しようとするルートを、まったく確立せず無い、無いと騒ぐだけではないか

過去、何回となく国内で行われた日韓交流で、僕は、日本協会役員や強化委員らが〝総見〟している場面に出会ったことがない。

ヨーロッパの専門誌を購入し、それを翻訳して回覧させるといったアイデアもない。

私ごとで恐縮だが、本誌へ寄稿している「海外トピックス」に対して、問い合せなど〝反応〟を示されるのは、日本協会とは関係のない一般読者のかたがたばかりだ

なかには、僕などより、はるかに事情に通じたかたも居られる。

強化委関係者は「どういう方法があるか判らない」というに違いない。でも、この協会、すでに四十年経っているのだ。

考えたあげくが、記者クラブへの、あのお願いだとしたら、あまりにも、お粗末すぎる。

■マスコミ対策の見なおしを

これも、前項と関連する話だ。

アジア予選の指揮をとった鈴木義男・全日本女子監督が、八月なかば、急に辞表を提出したが、そのあとの、強化委の〝隠密〟ぶりは日頃、ハンドボールのことを思っているスポーツライターたちを、嘆かせ放しだった。

関係者たちは「まだ話せない」とか「よく判らない」とかで通しなかには「鈴木監督は辞表など出していない」といいはる人もいた。

さらに、九月二十九日の強化委員会で、池田コーチの昇格を申し合わせながらこの期になっても、鈴木氏の辞表提出さえ明きらかにせず、球界内に、よけいな混乱を招いている。

この件を取材していた大半の担当ライターたちは、三日後には、会議の全ぼうに近いものを仕入れていた。聞くところによると、強化委は、いま、どこから話がもれたか、互いの胸をつきあっているというが、そんな幼稚なことはやめたほうがいい。

人里はなれた山中で、秘かに開いた会合ならともかく、僕らは、ちゃんと取材して「池田コーチ昇格」のニュースを手にしたのだ。

日本ハンドボール界にとって、マスコミ対策は、財源問題と並んで、もっとも大きな課題である。

日本協会の動き一つ一つを、プレス発表し、なんとか、活字に、電波に採りあげてもらわなければいけない。

まして、看板たる男女ナショナルチームは、あらゆる機会に、その活動を宣伝し、ハンドボール愛好者はもとより、一般スポーツファンの関心をも、高める必要がある。

現在の日本協会の広報機関が、どう整備されているかは知らぬがビッグイベントの記者発表にしても、事務的にすぎる。内容に乏しい。

日本リーグにしたって、発足当初の掛け声が、だんだん小さくなり、ルーズになる一方。

日本ハンドボール界が、あらゆる面で成長し、ビッグイベントのたびに、多くの観客を動員し、国際的水準があがっていくのなら、その上昇カーブの何倍もの速さ、大きさで、マスコミは、ハンドボールに目を注ぐだろう。

各地新人戦結果

○茨城県高校新人戦兼全国高校選抜選考会

昭和53年11／17〜21日
笠間高校、笠間市民体育館

▼男子一回戦
玉造工 18—14 古河三
磯原 22—5 江戸崎
笠間 19—9 土浦工
茨城 14—13 水戸一
土浦一 19—4 竜ケ崎一
波崎 27—13 佐竹
太田一 19—9 緑岡
水戸工 13—10 勝田工
土浦三 22—5 岩井西
日立工 20—15 石下
麻生 33—7 江戸崎西
岩井 23—12 日立一
勝田 27—3 真壁農

▼同二回戦
鬼怒商 不戦勝 水戸工
土浦三 21—15 日立工
麻生 不戦勝 岩井
勝田 不戦勝 下館一
石岡一 18—10 玉造工
笠間 22—15 磯原
土浦一 31—8 茨城
太田一 17—11 波崎

▼同三回戦
笠間 18—10 石岡一
土浦一 38—12 太田一
土浦一 18—14 鬼怒商
麻生 21—7 勝田

▼同準決勝
土浦一 15—9 笠間
麻生 20—10 土浦三

▼同決勝
土浦一 14—11 麻生

▽女子一回戦
麻生 19—3 石岡二
竜ケ崎二 10—4 水海道二
結城二 11—4 下妻二
太田二 15—2 北茨城
岩井 9—7 八郷
水戸二 13—10 高萩
土浦一 17—11 波崎
潮来 10—5 笠間

▽同二回戦
麻生 19—7 磯原
竜ケ崎二 24—1 土浦一女
結城二 10—4 岩井西
鉾田二 7—3 太田二
岩井 12—4 竜ケ崎一
水戸二 9—6 石下
土浦一 7—5 藤代
潮来 11—2 土浦三

▽同三回戦
麻生 9—7 竜ケ崎二
結城二 9—3 鉾田二
岩井 13—5 水戸二
潮来 15—5 土浦二

▽同準決勝
麻生 8—4 結城二
潮来 15—4 岩井

▽三位決定戦
結城二 14—8 岩井

▽同決勝
麻生 12—9 潮来

○長崎県高校新人戦

昭和53年11／18〜19日
島原農高グラウンド

▼男子一回戦
口加高 20—6 総付高
瓊浦高 29—6 波佐見
佐北高 19—7 鹿工高
日大高 17—8 佐商高
長北高 19—12 西彼高
佐東高 17—9 西海高

▼同二回戦
佐西高 18—8 口加高
佐北高 14—4 瓊浦高
日大高 15—10 長北高
長工高 31—3 佐東高

▼同準決勝
佐西高 8—6 佐北高
長工高 14—7 日大高

▼同三位決定戦
佐北高 12—6 日大高

▼同決勝
佐世保西高 13（8—6、5—6）12 長崎工業高

▽女子一回戦
島農高 11—10 日大高
佐北高 5—2 西彼高
有馬商 9—4 長北高
佐商高 14—5 佐西高

▽同準決勝
島農高 10—1 佐北高
佐商高 14—4 有馬商

▽同三位決定戦
佐北高 8—5 有馬高

▽同決勝
島原農業高 6（2—1、4—0）1 佐世保商業高

○大阪府新人戦兼全国選抜予選会

昭和53年11／3〜19日
於 北淀、摂津、初芝、春日丘高 4会場

▼男子一回戦
箕面 13—9 東淀川
交野 不戦勝 東住吉工
教育大平野 14—10 藤井寺
泉陽 13—13 北陽
【PTCにより4—3で泉陽高】
花園 19—6 清風
大東 15—9 門真
春日丘 16—9 盾津
和泉 不戦勝 城器
池田 13—11 羽曳野
寝屋川 19—7 高津
吹田東 11—6 泉大津
初芝 18—9 野崎
此花 31—6 和泉工
豊島 13—6 関西大倉
長野北 16—7 城東北
阪南 18—11 富田林
三島 21—7 寺口北
泉北 17—14 高槻北
東豊中 27—13 園芸
浪速商 29—2 同志社香里
牧野 17—10 四条畷
高石 20—15 松原
桜宮 19—8 茨木工

▼同二回戦
枚方 20—8 牧野
高石 20—15 市立工芸
生野 19—9 南寝屋川
桜宮 17—4 茨木工
淀川工 17—4 島本
北野 14—6 長野
桜塚 30—11 箕面
堺工 29—7 交野
阿倍野 16—12 教育大平野
住吉 25—10 岸和田
摂津 21—20 泉陽
登美丘 15—11 春日丘
花園 20—8 金岡
大東 16—8 大阪学院
池田 7—6 三国丘
寝屋川 20—8 貝塚南
吹田東 20—7 茨木
千里 19—4 泉鳥取
初芝 16—8 大商
此花 41—8 鳳高
商大堺 22—10 長尾
桃山 21—7 豊島
八尾 19—7 堺東
箕面学 19—10 上宮
山本 24—9 長野北
東住吉 10—10 阪南
【PTCにより東住吉が進出】
豊中 21—7 三島
泉北 22—5 追手門
都島工 24—8 東豊中
江商 40—4 大阪教池田

▼同三回戦

豊中 16—15 泉北
都島工 11—8 浪速商
枚方 21—12 高石
桜宮 20—12 生野
此花 20—4 天王寺
桃山 25—11 商大堺
八尾 24—11 箕面学
山本 9—5 東住吉
登美丘 26—2 大東
池田 19—14 和泉
寝屋川 17—12 吹田東
初芝 20—11 千里
北野 19—10 淀川工
堺工 21—17 桜塚
住吉 20—11 阿倍野
摂津 17—9 花園

▼同四回戦

登美丘 19—12 池田
八尾 17—16 山本
摂津 12—10 住吉
此花 15—11 桃山
北野 15—14 堺工
初芝 11—9 寝屋川
都島工 14—12 豊中
枚方 17—8 桜宮

▼同五回戦

摂津 17—10 北野
登美丘 19—10 初芝
此花 30—14 八尾
都島工 15—10 枚方

▼同準決勝

摂津 14—11 登美丘
此花 20—6 都島工

▼同決勝

此花 14—9 摂津

▽女子一回戦

薫英 6—6 泉北
梅花 16—1 守口北
大谷 17—0 泉大津
三島 12—4 長尾
和泉 5—3 八尾
三国丘 10—8 東百舌鳥
山本 7—4 刀根山
城南 不戦勝 金岡
宣真 7—2 寝屋川
春日丘 19—5 豊島
四天王寺 9—2 東住吉
北淀 不戦勝 長吉
福島女 不戦勝 交野
池田 9—3 矢野
桜塚 21—0 東淀川
豊中 14—12 牧野
枚方 9—6 大和川
門真 13—8 北野
島本 7—5 摂津
東豊中 14—11 千里
天王寺 14—2 高槻北
貝塚南 不戦勝 創価女子
茨木 8—6 高石
住学 7—6 岸和田
鶴見商 25—2 高津
箕面 9—2 長野

▽同二回戦

薫英 12—0 池島
大谷 17—1 梅花
三島 10—5 成蹊
和泉 7—3 三国丘
城南 18—4 山本
春日丘 7—3 宣真
四天王寺 8—2 北淀
境東 8—7 福島女
池田 5—4 南寝屋川
豊中 11—5 桜塚
枚方 16—4 樟蔭東
門真 19—4 島本
天王寺 6—6 東豊中
【PTCにより天王寺が進出】
高石 6—5 貝塚南
鶴見商 9—3 住学
箕面 13—5 扇町

▽三回戦

大谷 12—0 薫英
三島 7—2 和泉
春日丘 5—4 城南
四天王寺 15—5 堺東
豊中 13—5 池田
枚方 8—4 門真
天王寺 不戦勝 茨木
鶴見商 15—1 箕面

▽同四回戦

大谷 12—4 三島
春日丘 15—6 四天王寺
豊中 8—5 枚方
鶴見商 8—3 天王寺

▽同準決勝

春日丘 4—3 大谷
豊中 9—5 鶴見商

▽同決勝

春日丘 7—6 豊中

昭和53年大阪私学総会大会

11／23、26日　桃山学院高校

▼男子一回戦

追手門 不戦勝 成器
清風 16—13 北陽
大商 28—17 大商大堺
桃山 21—7 同志社香里
関西大倉 27—10 上宮

▼同二回戦

此花 40—11 追手門
浪速商 26—8 清風
桃山 21—11 大商
初芝 22—21 関西大倉

▼同準決勝

此花 15—8 浪速商
桃山 26—14 初芝

▼同三位決定戦

浪速商 19—14 初芝

▼同決勝

桃山 17—10 此花

▽女子一回戦

成蹊 13—8 創価女
梅花 7—6 福島女
東大阪 不戦勝 樟蔭東
宣真 13—5 薫英

▽同二回戦

城南 16—6 成蹊
四天王寺 25—6 梅花
大谷 11—1 東大阪
宣真 13—5 住学

▽同準決勝

城南 13—6 四天王寺
大谷 6—4 宣真

▽同三位決定戦

宣真 18—8 四天王寺

▽同決勝

城南 6—4 大谷

○香川県高校新人戦

昭和53年11／19、23日　高松工芸高グランド

▼男子一回戦
高松東 16―9 高松南
坂出工 19―9 大手前
【PTC2―0で坂出工が進出】
高松一 11―5 高松西
三本松 16―6 坂出一

▼同二回戦
高松南 16―6 高松東
丸亀 15―14 坂出工
高松 9―8 高松一
高松工芸 8―7 三本松

▼同準決勝
高松商 13―7 丸亀
高松工芸 11―8 高松

▼同決勝
高松工芸 9―8 高松商

▽女子一回戦
高松南 8―4 高松商
高松西 6―5 三本松
高松 10―3 高松東
高松一 9―3 中央

▽同準決勝
高松南 16―2 高松西
高松一 5―1 高松

▽同決勝
高松南 3―2 高松一

○群馬県高校新人戦

昭和53年11／19、23、26日　前橋市女子高

男女吉井がアベック優勝を飾る

▼男子予選リーグ
（Aブロック）
前橋商 9―5 富岡
吉井 15―9 下仁田
吉井 19―12 前橋商
富岡 10―10 下仁田
前橋商 21―15 下仁田
吉井 11―10 富岡

（Bブロック）
藤岡 21―7 桐生工
桐生 9―5 利根農
藤岡 20―2 桐生
桐生工 14―8 利根農
桐生 21―11 桐生工
藤岡 22―3 利根農

▼同三位決定戦（各ブロック2位）
前渡商 21―8 桐生

▼同決勝（各ブロック1位）
吉井 13―11 藤岡

▽女子予選リーグ
（Aブロック）
前市女 19―4 前橋商
前市女 9―5 西邑楽
佐藤学園 21―3 西邑楽
前市女 8―5 佐藤学園
前橋商 12―4 西邑楽
佐藤学園 15―5 前渡商

（Bブロック）
群女短大附 21―4 前東商
高崎女 10―9 前東商
群女短大附 13―5 高崎女

（Cブロック）
下仁田 11―2 桐生女
吉井 13―5 下仁田
吉井 16―3 桐生女

▼同決勝リーグ
（各ブロック1位）
群女短大附 11―6 前市女
吉井 19―3 前市女
吉井 13―4 群女短大附

○東京都高校新人戦

昭和53年11／5～12／3

▼男子一回戦
神代 23―11 秋川
早大学院 17―9 雪ヶ谷
国立 23―8 荻窪
府中東 14―12 久留米
立川 12―9 府中
練馬 9―8 駒込
富士 18―11 武蔵丘
江戸川 9―8 学大附
明星 26―5 井草
杉並 8―6 農大一
新宿 17―12 錦城
駒大高 15―8 西高
国分寺 17―6 片倉

▼同二回戦
早大学院 17―15 神代
国立 16―14 府中東
立川 18―4 練馬
中大附 40―9 富士
江戸川 23―9 羽田工
明星 35―10 杉並
駒大高 25―8 新宿
日体荏原 35―14 国分寺

▼同準決勝
国立 8―6 早大学院
中大附 25―9 立川
明星 26―10 江戸川
駒大高 17―16 日体荏原

▼同決勝
中大附 17―17（延長）4―1 明星

▽女子一回戦
小平 10―6 国分寺
府中西 10―5 日大二
学大付 16―2 国立
神代 11―4 武蔵丘
桐朋女 不戦勝 豊多摩
四谷商 6―3 広尾

▽同二回戦
西高 10―9 小平
久留米 7―4 井草
江戸川 18―3 府中西
藤村 18―3 学大付
神代 11―7 桜水商
青山学 不戦勝 富士
拓大一 10―7 桐朋女
佼成女 3―1 四谷商

▽同準決勝
藤村 25―4 久留米
拓大一 8―6 神代

▽同決勝
藤村 12―6 拓大一

▼男子三位決定戦
駒大高 20―11 国立

▽女子三位決定戦
神代 10―8 久留米

○京都府高校新人戦

昭和53年11／3～26日（9日間）乙訓、伏見、明徳高・伏見市体育館

▼男子予選リーグ（28チーム）
Aゾーン勝者　東山
Bゾーン勝者　桂高
Cゾーン勝者　洛星

Dゾーン勝者 乙訓
Eゾーン勝者 洛北
Fゾーン勝者 向陽

▼同決勝トーナメント・一回戦
洛星 13—5 乙訓
向陽 14—8 東山

▼同準決勝
桂高 10—8 向陽
洛星 10—9 洛北

▼同決勝
洛星 9—3 桂高

▽女子予選リーグ（20チーム）
Aゾーン勝者 乙訓
Bゾーン勝者 洛東
Cゾーン勝者 西京
Dゾーン勝者 明徳
Eゾーン勝者 京女

▽同決勝トーナメント・一回戦
京女 10—8 乙訓

▽同準決勝
明徳 12—1 洛東
西京 14—4 京女

▽同決勝
明徳 8—7 西京

○岩手県高校新人戦
昭和53年11／11〜13（3日間）

▼男子一回戦
盛岡商 15—1 福岡

▼同二回戦
盛岡商 40—8 大迫
盛岡三 17—8 岩手
盛岡一 14—7 福岡工
釜石南 22—6 一戸
一関工 25—8 岩手橋
花巻北 11—5 水沢
宮古 20—10 久慈
盛岡四 19—15 花巻農

▼同三回戦
盛岡商 7—7
【PTCにより3—2で盛岡商】
盛岡一 13—8 釜石南
花巻北 20—10 一関工
盛岡四 18—17 宮古

▼同準決勝
盛岡一 9—8 盛岡商
盛岡四 12—11 花巻北

▼同決勝
盛岡一 14—10 盛岡四

▽女子予選リーグA
盛岡二 10—1 花巻農
平舘 11—2 水沢
花巻農 6—5 平舘
盛岡二 13—4 水沢
盛岡二 8—2 平舘

▽同予選リーグB
岩手女 12—1 盛岡三
花巻南 11—2 盛岡三
花巻南 3—2 岩手女

▽同予選リーグC
釜石南 8—4 一戸
花巻北 8—6 宮古
花巻北 19—4 一戸
宮古 5—4 釜石南
花巻北 10—2 釜石南

▽同予選リーグD
釜石南 9—2 福岡
黒沢尻南 15—4 福岡
黒沢尻南 6—3 釜石南

▽同決勝トーナメント・準決勝
花巻南 5—3 盛岡二
花巻北 9—5 黒沢尻南

▽同決勝
花巻南 6—3 花巻北

ビッグカードが実現

世界の女王
東ドイツ女子ナショナル
チーム来日!!

２月10日(土)午後
駒沢体育館で全日本女子と第１戦

昨年くれの第７回世界女子ハンドボール選手権で史上初の２連覇を遂げた東ドイツ女子ナショナルチームが来日する。
ヨーロッパの女子ナショナルチームが日本へ姿を見せるのは初めて。
モスクワオリンピックを目指す新生・全日本女子が、来日第１戦として東京・駒沢体育館で迎え撃つ!!

主催　日本ハンドボール協会

入場券問合せ……03－467－7097

国体各地予選会結果報告

千葉県

▽成年の部・男子一回戦
日産石油 32―21 木更津補給所
三井石油 23―18 出光石油
丸喜石油 不戦勝 海自下総
▽同二回戦
千葉教員 38―16 日産石油
丸喜石油 19―18 三井石油
▽同決勝
千葉教員 34―9 丸喜石油
▽成年の部・女子決勝
昭和学院ク 9―2 水郷クラブ
▽少年の部・男女一回戦
京葉高 28―1 船橋旭高
上総高 15―7 四街道高
▽同二回戦
京葉高 16―12 沼南高
我孫子高 10―8 明徳高
東葛飾高 9―8 流山中央高
千葉南高 12―7 上総高
▽同三回戦
京葉高 12―11 東葛飾高
▽同四回戦
清水高 14―8 京葉高
▽同決勝
清水高 16―15 佐原高
▽少年の部・女子一回戦
東邦高 12―1 四街道高
佐原女高 32―1 県松戸高
▽同二回戦
東邦高 7―3 佐原女高
▽同三回戦
流山中央高 11―8 東邦高
▽同決勝
昭和学院 11―5 流山中央高

大分県

▽成年男子・準決勝
佐賀関ク 23―17 大分教員
新日鉄大分 25―6 R・インパルス
▽同決勝
新日鉄大分 44―15 佐賀関ク

石川県

▽成年男子一回戦
小松ク 18―16 金沢R
県工ク 21―17 小松製作所
▽同準決勝
あすなろク 25―17 小松ク
金沢市役所 35―8 県工ク
▽同決勝
金沢市役所 22―18 あすなろク
▽少年男子一回戦
大聖寺 16―7 小松商
▽同二回戦
県工 13―8 羽咋
金商 6―4 大聖寺
七尾ク 14―11 松任
松陵工 14―12 北陸大谷
泉工 11―2 津幡
小松 11―5 寺井
小松工 13―9 星稜
錦丘 11―7 金市工
▽同三回戦
県工 9―4 七尾ク
泉丘 25―6 松陵工
小松工 13―8 小松
錦丘 13―4 金商
▽同準決勝
泉丘 15―9 県工
小松工 24―8 錦丘
▽決勝
小松工 17―7 泉丘
▽少年女子一回戦
北陸大谷 11―10 金商
▽同二回戦
小松市女 26―1 北陸大谷
大聖寺 8―6 津幡
短大高 10―8 松任
小松商 16―2 星稜
▽同準決勝
小松市女 15―1 大聖寺
小松商 20―8 短大高
▽同決勝
小松市女 22―3 小松商
【小松市女は14年連続優勝】

青森県

▽少年男子一回戦
五所高 19―10 弘南高
三本木高 22―9 野工高
鯵ケ沢高 17―11 青森高
▽同二回戦
青商高 24―11 五所高
三本木高 18―8 青東高
青南高 17―7 柏農高
野辺地高 17―6 鯵ケ沢高
▽同準決勝
青商高 19―14 三本木高
野辺地高 7―6 青南高
▽同決勝
青商高 16―14 野辺地高
▽少年女子一回戦
青森中央高 7―5 三本木高
七戸高 14―3 野工高
▽同準決勝
青西高 22―1 青森中央高
野辺地高 23―7 七戸高
▽同決勝
青西高 16―4 野辺地高
▽成年女子決定戦
あすなろク 17―2 野辺地ク
▽成年男子一回戦
尾上ク 21―13 青商クラブ
野辺地ク 25―17 青森教員
七戸ユニオン 28―14 海自二空
▽同準決勝
青森ク 29―17 尾上ク
七戸ユニオン 23―17 野辺地ク
▽同決勝
青森ク 19―18 七戸ユニオン

鳥取県

▽少年男子一回戦
米子東 19―4 境高
倉吉東 14―12 米子北
境港工 26―7 倉吉産
▽同準決勝
倉吉工 25―11 米子東
境港工 24―5 倉吉東
▽同決勝
境港工 16―12 倉吉工
▽少年女子準決勝
倉吉西 19―1 米子東
米子南 13―9 倉吉産
▽同決勝
倉吉西 10―6 米子南
▽成年女子決定戦
米子南OG 14―4 倉吉クラブ
▽成年男子決定戦
境港市 27―21 中部クラブ
境港市 19―14 関金クラブ
【境港市が中国地区予選に出場】

島根県

▽少年男子一回戦
浜田水 27―5 江の川
松江南 14―9 松江農
▽同準決勝
飯南高 17―14 浜田水
松江工 18―14 松江南
▽同決勝
飯南高 17―15 松江高
▽少年女子一回戦
松江農 12―7 浜田水
浜田商 13―2 松江一
▽同準決勝
松江女 20―1 松江農
浜田商 12―6 松江南
▽同決勝
松江女 8―3 浜田南
▽成年男子一回戦
松江工OB 20―11 温泉津ク
浜田水OB 19―11 江津ク
▽同準決勝
朝酌クラブ 22―10 松江工OB

浜田水ＯＢ　16―12　島根町体協
▽同決勝
朝酌クラブ　2―0　浜田水ＯＢ
【同国体地区予選出場決定戦】
朝酌クラブ　18―9　島根町体協

岐阜県

▽成年女子準決勝
三洋電機　14―12　県岐商ＯＢ
笠松クラブ　9―4　加納クラブ
▽同決勝
笠松クラブ　13―11　三洋電機

第二回全国クラブハンドボール選手権大会

▽一回戦
佐世保ク　28―8　三信クラブ
岩国クラブ　28―7　岐阜南ク
県和商ク　18―17　気賀クラブ
七戸ユニオン　22―10　富士ク
セブンスター　20―18　呉バァーズ
ＡＯＫ栃木　35―8　静岡市役所
徳山クラブ　27―14　ウの森ク
添上クラブ　19―13　修道クラブ
清商クラブ　20―10　光陽会
麻生クラブ　22―14　雪陵クラブ
下関クラブ　9―7　稲球会
静農クラブ　17―12　竜ケ崎ク
三原クラブ　25―10　御殿場ク
高知ク　17―10　金沢あすなろク
▽二回戦
佐世保ク　17―15　岩国クラブ
大崎Ｈ愛好会　21―12　県和商ク
七戸ユニオン　14―13　桜丘会
ＡＯＫ栃木　19―18　7スターズ
徳山クラブ　25―18　添上クラブ
清商クラブ　14―12　麻生クラブ
静農クラブ　18―17　下関クラブ
高知クラブ　25―17　三原クラブ
▽三回戦
佐世保ク　23―13　大崎Ｈ愛好会
七戸ユニオン　17―7　ＡＯＫ栃木
徳山クラブ　19―16　清商クラブ
高知クラブ　15―14　静農クラブ
▽準決勝
佐世保クラブ　28（15―10、13―6）16　七戸ユニオン
徳山クラブ　14（7―7、7―3）10　高知クラブ
▽決勝
佐世保クラブ　16（10―5、6―9）14　徳山クラブ

〃あすなろ国体成功記念〃
第1回野辺地町ハンドボール大会開かる!!

昭和53年12／3（日）
青森県野辺地町立体育館

【大会結果】
＜一般男子＞
▽一回戦
野辺地高職員　7―5　バスケット協会
▽二回戦
商工青年部　11―4　二・八の会
サッカー協会　10―2　むつ小川原発（株）
野辺地町役場　7―6　全通
野辺地高職員　9―5　八幡町青年有志会
▽準決勝
野辺地町役場　12延長10　サッカー協会
野辺地高職員　11―11　商工会青年部
【ＰＴＣにより4―3で高職員】
▽決勝
野辺地町役場　10（4―6、6―3）9　野辺地高職員
＜一般女子＞
▽決勝
八幡青年有志会　4（1―1、3―3）3　ファンタ
【ＰＴＣにより1―0で有志会】

―第一回野辺地町ハンドボール大会に寄せて―

「青森国体」を記念して開催された本大会、大変盛況のうちに終了されたと言うことで誠におめでとうございます。しかも大会参加者は素人さんたちばかりとお聞きし、ハンドボール界にとりましても非常に喜こばしいことと思います。……『明年からは、できれば町内自治会に働きかけて、職場対抗的と言うよりは、町内対抗という方式で――。』……と主催者側の方（代表者・野辺地町中央公民館　滝口太氏）の念願されます通り、第二、第三回と素晴しい大会に発展されます様、関係者の方々のご尽力をご期待致します。

本誌編集委員

【34頁協会ＰＲより】

東ドイツ女子 対 全日本女子

2月10日（土）
場所
駒沢屋内球技場
（前頁では駒沢体育館となっておりましたが、「駒沢屋内球技場」の誤りですので訂正かたがたお詫び申し上げます。）
午後二時より
○高校女子前座試合
藤村女高（東京一位）対 拓大一高（同二位）
午後三時三〇分より
◎メインイベント
全日本女子 対 東ドイツナショナル
入場料
○一般 1,200円　○学生 1,000円
○高校 700円　○中学 500円
（前売りはすべて200円引き）

興奮再現。

持ち運んで楽しむか

クリアでナチュラルな音質の実用最大出力4.2W（2.1W＋2.1W、EIAJ/DC）のパワー。12cmウーハー（中低音域用）と3.5cmツイーター（高音域用）採用のスピーカー・システムが再現するリアルなパワーサウンド、心ゆくまでお楽しみください。

- ●FM／AM2バンドラジオつき
- ●(クロム／ノーマル)テープセレクター採用
- ●フルオートストップ
- ●外部スピーカー端子つき（別売り APS-80）使用
- ●ラインイン、ラインアウト端子、マイク端子（R用、L用各1個）つき

ステレオ パディスコ8030 TRK-8030 ¥43,800

●電源DC：9V（単1×6） AC：100V 50/60Hz カーアダプター（別売りD-70） ●大きさ 幅41.2×高さ25.6×奥行12（cm） ●重さ 5.0kg（乾電池含む）

システム パディスコ

●専用外部スピーカー、APS-80 別売り 2本セット¥11,800
●レコードプレヤーHT-320 別売り ¥25,800（レコードプレヤーを接続するにはMM形カートリッジイコライザー〈MCE-70〉別売り ¥4,500が必要です）

▲上の写真はステレオパディスコ8030をシステムアップしたものの一例です。

組んで楽しむか

パディスコ8030はシステムアップできるラジオカセット。専用外部スピーカー（APS-80）の接続により、迫力あるステレオ・サウンドがさらに倍増。また、プレヤー（HT-320）を接続すればレコード音楽も楽しめます。（MM形カートリッジイコライザー MCE-70が必要）

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI CASSETTE RECORDER

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12（日立愛宕別館）TEL.(03)502-2111
日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12（日立愛宕別館）TEL.(03)503-2111

★商品のお問合せ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

★「日立カセットレコーダーの保証書」は必ずお受けとりください。お買い上げの際に、販売店名、ご購入年月日が記入されているかを、お確かめになり、大切に保存してください。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一六八号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五三年十一月二十五日印刷 昭和五三年十二月 一 日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表（467）七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価 三百五十円（年間購読料三千三百円）